

発掘調査報告第12集

駒ヶ根東部土地改良区下間地区県営ほ場整備事業（昭和56年度分）

埋蔵文化財緊急発掘調査

よきとぎ遺跡

—緊急発掘調査報告書—

1982

南信土地改良事務所

駒ヶ根市教育委員会

序 文

今回ここに刊行の運びとなった報告書は、竜東地区の県営は場整備事業に伴い、昭和56年度に実施された埋蔵文化財緊急発掘調査の報告であります。

現在駒ヶ根市は3つの地区により構成され、天竜川をはさんで西に赤穂地区、東に竜東地区があり、その竜東地区は大別すると新宮川をはさんで北に東伊那地区、南に中沢地区があります。

大正末年より鳥居龍藏博士により遺跡の分布調査がされ、当遺跡が存在します中沢地区もその研究の中に述べられてきました。

駒ヶ根市では、中沢地区・東伊那地区にあります数多くの遺跡を対象に、昭和56年度より竜東地区県営は場整備事業に先立ち、これらの埋蔵文化財の発掘調査を実施しなければならない現情であります。

今回発掘調査を実施しましたよきとぎ遺跡は、中沢地区のみならず駒ヶ根市内において、大変貴重であり、重要な遺跡であることが確認されました。それは、遺構については土塙のみであります。遺物におきまして、縄文時代早期末から前期にかけての土器片が数多く出て、駒ヶ根市内で発見された遺跡の中で古い方に属するということであります。本報告書の各項にみられます多くの遺構・遺物は、今後の研究上に果たす役割は大きなものがあると確信しております。長期間にわたって発掘調査をご指導下さった友野良一團長を初め、快く発掘作業に参加していただいた地元の方々、事業に深いご理解をいただいた東部土地改良区並びに南信土地改良事務所の方々、地主の方々等、多くの皆さまのご協力、ご厚意によりまして初期の目的を達成することができました。ここに関係者の皆さま方に心から感謝申し上げますとともに、この報告書が学界のお役に立つことを念願する次第であります。 駒ヶ根市教育長 木下 衛

凡 例

1. 今回の調査は、昭和56年度に実施された駒ヶ根東部土地改良区下間地区県営は場整備事業に伴うものである。
2. 事業は、南信土地改良事務所の委託により、県営は場整備事業駒ヶ根下間地区埋蔵文化財調査会が実施したものと文化庁補助事業との両者のものである。
3. 当報告書は、昭和56年度中に業務を終了する義務があるため、調査によって明らかとなった遺構及び遺物をより多く図示することに重点をおき、文章記述はできる限り簡略し、資料の再検討は後日の機会にゆずることとした。
4. 当報告書の執筆は、小原晃一が担当した。
5. 遺構関係の図面は、小原と新井美智子が製図し、縮尺はその都度指示してある。
6. 遺物整理作業の中で、土器の復元を小松原義人が担当し、土器の実測を小原・白沢由美が、土器の拓影を新井美智子・宮下節子が、石器の実測・製図を新井美智子がそれぞれ分担した。
7. 当報告書の編集は、小原晃一が主としてあたった。
8. 当遺跡の遺物及び実測図類は、市立駒ヶ根博物館に保管してある。

目 次

序 文	
凡 例	
目 次	
挿図目次	
図版目次	
第I章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査に至るまでの経過	1
第2節 調査会の組織	1
第3節 発掘作業経過	2・5・7
第II章 遺跡の環境	7
第1節 位置及び地形	7・8
第2節 歴史的環境	8
第III章 発掘調査	9
第1節 調査概要	9
第2節 遺構と遺物	10
第IV章 ま と め	50

挿 図 目 次

第1図 よきとぎ遺跡位置図	3
第2図 よきとぎ遺跡地形図	4
第3図 よきとぎ遺跡周辺遺跡分布図	6
第4図 S(か-12)-N(す-12)・W(さ-7)-E(さ-16)層位断面図	9
第5図 よきとぎ遺跡遺構全体図及びグリット図	10
第6図 か-8~16G・か-8~す-8G内、暗褐色土層遺物分布図	33
第7図 第I群1・2類、第II群1類A~C種土器	36
第8図 か-11~16G・か-11~す-11G内、黒褐色土層遺物分布図	37
第9図 第II群1類C~E種、2類A・B種土器	38
第10図 か-10~16G・か-10~す-10G内、黒褐色土層遺物分布図	39
第11図 第II群3類A~E種、第III群1・2類土器	40
第12図 土坑1~3号周辺遺物分布図及びピット群・焼土集中区実測図	41
第13群 第IV・V群土器	42

第14図 石器実測図.....	42
第15図 石器実測図.....	45
第16図 石器実測図.....	46
第17図 石器実測図.....	47
第18図 第1号住居跡・集石址実測図及び遺物分布図.....	48
第19図 第VI・Ⅷ群土器.....	49

図 版 目 次

図版 1 よきとぎ遺跡調査状況.....	53
図版 2 造構出土状況.....	54
図版 3 土塙1号～4号.....	55
図版 4 遺物出土状態.....	56
図版 5 出土土器.....	57
図版 6 出土土器.....	58

第 I 章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至るまでの経過

昭和51年度より県営は場整備事業に伴う発掘調査の経費のうち、農家負担分については、文化財保護担当部局において負担するようにとの指示があったため、よきとぎ遺跡の一部をよきとぎB遺跡とし文化庁補助事業として委託事業を実施することとし、昭和56年5月6日に予算165万円の補助事業交付申請書を提出した。

当該事業は県営は場整備事業と関連するため、南信土地改良事務所・東部土地改良区と連絡をとりながら、7月1日から着工することとした。団長には友野良一氏をお願いし、調査団を編成して県文化課へ発掘調査の指示を受けた。

今回の発掘調査は一遺跡を補助事業と南信土地改良事務所からの委託調査として進めて行く方法をとった。

第2節 調査会の組織

●よきとぎ遺跡発掘調査会

会長 木下 衛（駒ヶ根市教育長）
理事 小池金義（〃 教育次長）
〃 宮脇昌三（〃 文化財審議委員）
〃 松村義也（〃 〃 ）
〃 竹村進（〃 〃 ）
〃 増沢広人（市立駒ヶ根博物館長）
監事 中原正純（市文化財保存会長）
〃 北原名田造（駒ヶ根郷土研究会長）
幹事 北沢吉三（市教育委員会社会教育係長）
〃 原寛恒（〃 社会教育係）
〃 福沢房美（市立駒ヶ根博物館）
〃 小原晃一（〃 ）

●調査団

団長 友野良一（日本考古学协会会员）〈発掘担当者〉
調査員 小原晃一（長野県考古学会会员、市博物館）〈発掘担当者〉

調査員 小町谷 元
 補助員 小河 千折
 指導者 関 孝一（県文化課指導主事）
 郷道哲章（〃）
 白田武正（〃）
 楠口昇一（県文化課専門主事）
 岩佐今朝人（〃）
 笹沢 浩（〃）
 小林秀夫（〃）
 青沼博之（〃）
 小柳義男（〃）
 百瀬新治（〃）
 土屋 横（〃）
 百瀬長秀（〃）
 林 茂樹（日本考古学協会会員）
（順不同、敬称略）

第3節 発掘作業経過

6月30日（火） 昭和55年秋に試掘調査を実施した地区の中で、遺物包含層が確認された個所を中心として、北西隅を基点とし、主格で10m×10mのグリットを設定する。引き続き、器材運搬を行う。

7月1日（水） 前日設定したグリットの中で、北西隅に天幕を設営する。グリットは南北軸南からあ・か・さ・た……とし、東西軸西から1・6・11・16……とし、中に2m×2mの小グリットを設け、うー1グリットからなー1グリットまで一つおきに掘り下げる。出土遺物はなく南側の基盤はローム層で良好であるが、北側は礫・砂の混土層である。

7月2日（木）

1 長雨により現場作業休み。

7月5日（日）

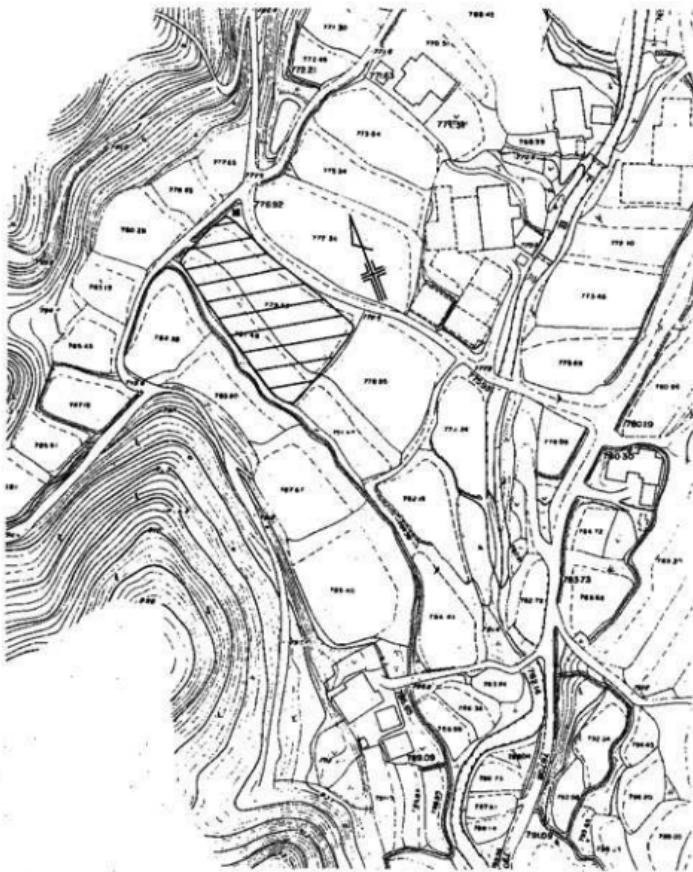
7月6日（月） いー3~5グリットからこー3~5グリットにかけて耕土作業。いー3~5と、かー3~5、いー5~けー5グリットにセクションを残す。うー5~かー5グリットに落ち込みを発見する。出土遺物は陶器片が出た。

7月7日（火） 下の段の田の耕土作業にかかり、つー8・10ーにー8・10グリットの耕土作業を行う。表土からの出土遺物はない。

7月8日（水） 引き続いで北側のねー8・10ーほー8・10グリットの耕土作業を行う。各グリットとともに基盤は砂・礫層である。ほー10グリット下層より縄文時代後期の土器片が出土。



第1図 よきとぎ遺跡位置図 ($S = \frac{1}{200,000}$)



第2図 上きとぎ遺跡地形図 ($S = \frac{1}{5,000}$)

調査区周辺の地形測量を縮尺200分の1で行う。

7月9日（木） し-10~14グリットからつ-10・12グリットにかけて排土作業を行う。さ-10~14、せ-10~14、た-10~14に東西方向に、また、さ-12~つ-12、さ-14~つ-14に南北方向にセクションを設定する。前日の残りの地形測量を行う。

7月10日（金） か・き-7・8グリット、さ-す-7・12グリットの排土作業を行う。出土遺物は、さ-す-7・8グリットを中心に縄文時代中期・奈良・平安時代の土器片が出土し、縄文時代中期の炉址と思われる石組が表出している。

7月11日（土） く～こ-7~12グリットの排土作業を行う。縄文中期や奈良・平安の遺物に混って、縄文早期末から前期にかけての土器片が出土する。

7月13日（月） か・き-10・11グリット、く～こ-9~11グリットの排土作業を行う。

7月14日（火） か・き-10~13グリット、く～こ-9~13グリットの排土作業を行う。く～こ-9グリットに木炭を多く含み黒色を呈する層が検出される。上の段の境で、い～か-6・7グリットにあたる土手部分をブルドーザーで排土作業を行う。

7月15日（水） か～こ-9~13グリットの排土作業をベルト部分を残してほぼ終了。下層より縄文時代早期末～前期にかけての土器片が総体的に出土する。か～こ-14・15グリット、く～こ-17・18グリットの排土作業にかかる。前日に引き続き、い～こ-6・7グリットの土手部分をブルドーザーにより排土作業を行う。遺物取上げと写真撮影を行う。

7月16日（木） い～し-4グリット、く-10~16グリットに設定したベルトの写真撮影を行い、縮尺20分の1で実測し、ベルトのとりはずしを行う。く～け-10~16グリットの遺物包含層の掘り下げを行い、遺物の取り上げ（平板へ20分の1でドットし、レベル実測）を行う。上の段のい～こ-4・5グリットで確認された落ち込みを第1号住居跡とし、焼土・木炭集中個所の清掃と写真撮影を行う。

7月17日（金） 第1号住居跡北側の集石址の掘り下げを行う。清掃後、写真撮影を行う。

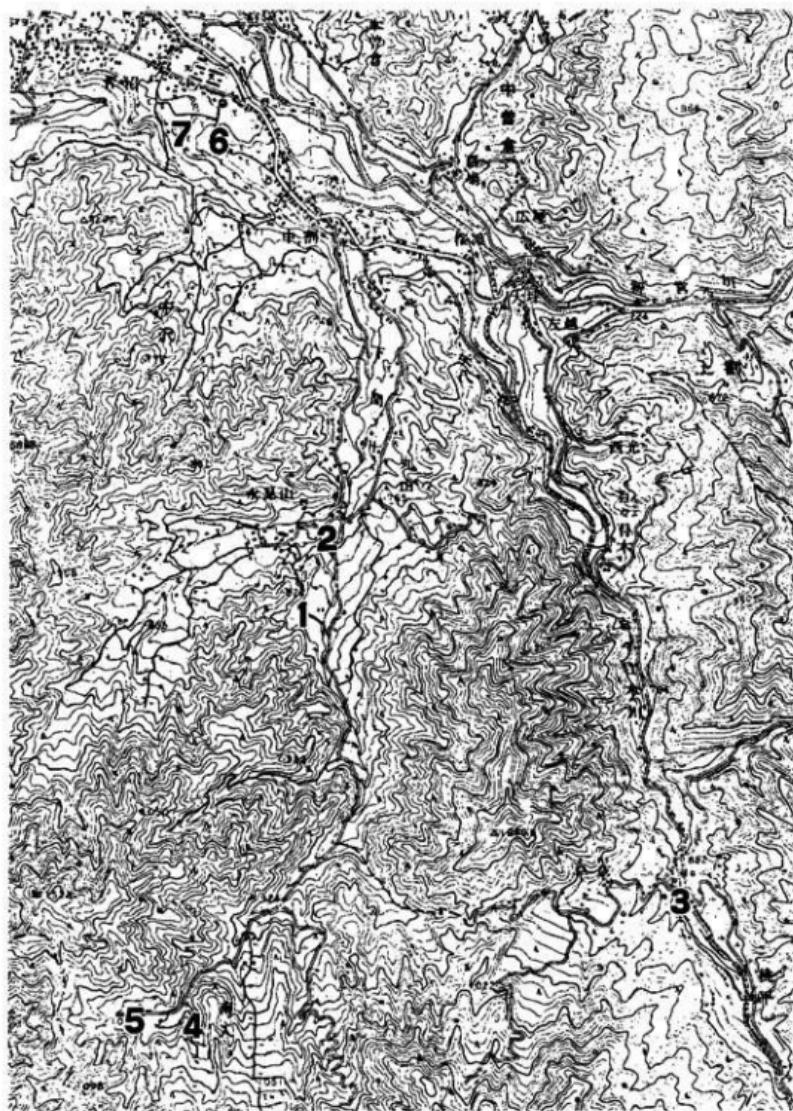
7月20日（月） け～し-10~13グリットの掘り下げを行う。縄文時代中期、土師・須恵器が多く出土する。

7月21日（火） さ・し-12・13グリットの掘り下げを行う。縄文早期末～中期・中期の遺物と土師・須恵器が黒色土の中から同一レベルで出土しているが、遺構は不明確である。

7月22日（水） 第1号住居跡を掘り下げる。さ・し-10・11グリットを掘り下げる。

7月23日（木） こ～し-9・10グリットとけ～す-9グリット（焼土・木炭集中区）の掘り下げを行い、焼土・木炭集中区の清掃及び写真撮影を行う。出土遺物のドット・レベル実測を行う。

7月24日（金） 第1号住居跡のベルトのセクション実測、か-1~4、け-1~4セクションの実測と写真撮影を行う。また、し～す-10・11グリットの掘り下げを行う。し-10グリットより鉄鎌が出土する。



1. よきとぎ 2. 古宮 3. 早草 4. 大平 5. きぐたし 6. 高見原 7. 高見原横山

第3図 よきとぎ遺跡周辺遺跡分布図 ($S = \frac{1}{25,000}$)

7月25日（土） 第1号住居跡柱穴の掘り下げを行う。し・す-10・11、け・こ-14・15グリットの掘り下げを行う。し・す-12・13グリットの礫群の平板測量と写真撮影を行う。

7月26日（日） か・き-13・14、し・す-12・13グリットの礫群レベル実測と平板測量を行い、け・こ-15・16グリットの掘り下げを行う。出土遺物は徐々に縄文時代早期末～前期のものが多くなったが、若干須恵器が混じる。全てのベルトを取りはずす。か・こ-13～15グリット内よりピット群と土塙が4基確認される。

7月27日（月） ピット群と土塙の平板測量と遺構より出土した遺物の取り上げを行う。さらに、い・す-1～16グリット内の遺物の取り上げと写真撮影を行う。

7月28日（火） 調査区全域の遺構の清掃と写真撮影を行う。

7月29日（水） 残った遺構～ピット群周辺の清掃と写真撮影を行い、発掘器材の整理と撤収の準備を行い、本日を持って発掘作業を終了する。

〔発掘調査参加者名簿〕

湯沢勝四郎、寺平政金、湯沢はる、下島花子、下島安江、林利子、林喜美、北原和枝、山本なをゑ、北原元枝、宮沢かつゑ、林すゑ子、青山ふしみ、山下光人

（協力者）山口克己、林勝司、湯沢武夫

三週間余にわたって、真夏の暑さの中で、発掘調査に参加していただいた方々に、心から感謝の意を申し上げる次第です。 (小原晃一)

第 II 章 遺跡の環境

第1節 位置及び地形（第1・第2図）

当遺跡は、駒ヶ根市中沢永見山1491-1、1492-1に所在する。国鉄飯田線駒ヶ根駅より南東6kmに位置し、標高は780m前後である。

駒ヶ根市中沢地区においては、中割部落から永見山部落への玄関口である高見城址より、南へ約2km入った所にあり、陣馬形山へ向う道すじの右手に位置する。

伊那谷は、長野県の南部にあり、西に木曾山脈があり、大竜川をはさんで東に赤石山脈、中央構造線をはさんで戸倉山、高鳥谷山を初めとする前山の伊那山脈が並行して走っている。この伊那山脈の一角をなす陣馬形山の北西山麓に当遺跡はある。この陣馬形山に端を発する下間川の左岸段丘上に当遺跡は位置し、東に下間川と丸山地蔵の山麓が展望でき、西にはやや急峻な山麓をひかえている。下間川との比高差は、10mを測る。

遺跡地下方で下間川へと続く地層は、当遺跡とは様相が一変して、砂・礫層が堆積し、同河川の氾濫原となっていたことが、試掘調査で明らかになった。

下間川の造り出した谷は、遺跡南方500mの地点から深いV字谷を形成し、高見城址まで続き、北に位置して東から西へ向って天竜川に流れ出る新宮川の造り出した堆積台地にあたって、それと並行して天竜川へと引き続く。その途中の左岸に位置する当遺跡は、その下間川の大河川と湧水がやや大きくなつた小河川の間にはまれ、南北に細長いテラス状の山麓先端部にあり、あまり大規模な遺跡を形成しなかつたものと考えられる。

したがつて、古地形を推定すると、遺跡地東端すぐ下位に下間川の川辺があつたと考えられる。当遺跡の層位について簡単にふれてみたい。現況では、2枚の水田の両方にまたがつて遺跡があり、開田時の痕跡をとどめており、ノーマルな状態は示していない。耕作土(表土—暗褐色土)を第I層として、以下に示すとおりである。

第I層——耕作土(表土—暗褐色土)

第II層——埋土(地場—暗黄褐色土)

第III層——茶褐色土

第IV層——暗茶褐色土(ローム粒・木炭粒含む—遺物包含層)

第V層——黒褐色土(木炭粒・焼土含む—遺物包含層)

第VI層——ロームふらん土

第VII層——ローム層

このような層位関係がみられるが、開田時の状況により第II・III層が複雑さを呈する部分がみられ、前述の様に砂・礫層が基盤となっている部分が遺跡地の北半分を占めることから下間川の氾濫原であったことを示している。

第2節 歴史的環境(第3図参照)

よきとき遺跡は、縄文時代の遺跡としては知られていたものの、具体的な調査や時期の判明は今までに行われてはいなくて、今回の調査に先行して行われた試掘調査により、縄文時代早期末から前期、中期の遺物が発見され、初めてその概要がつかめたと言えます。

第3図を参照していただきますと理解できますように当遺跡周辺は山間地であり、標高が650mから1,000mに及んでおり、全体的に未調査の部分が多くあります。2は古窯遺跡で下間川の左岸段丘上にあり、遺構は確認されず縄文早期末~前期・中期・後期、平安時代末、鎌倉~南北朝・室町にかけての遺物が出土している。3は早草遺跡、4は大平遺跡とともに縄文時代の遺跡とされています。5はきぐたし遺跡で、4とともに標高1,050m前後で非常に高地の遺跡であり、注目されるのは縄文時代とならんで平安時代の遺物が確認されていることです。6は、下間川と新宮川にはまれた東西に長い台地上に構築された高見原遺跡で縄文時代中期の大集落であり、また歴史時代の遺跡もあります。7は、高見原横山地点遺跡で昭和29年開田工事の際に押型文土器や斜縄文を施した土器など縄文時代早期の遺跡として知られています。

このように周辺の遺跡を総合的にみると、縄文時代早期から歴史時代にかけてのもので、よきとき古窯・高見原横山、きぐたし・よきとき・高見原という相間関係がはっきりと見られる。

第 III 章 発掘調査

第1節 調査概要

前章で述べたとおり、昭和55年秋の試掘調査により、縄文時代早期末から前期・中期の遺物が確認されていたので、駒ヶ根市内で割合古い方の遺跡の資料になるという期待のもとに試掘調査で遺物包含層となった地点を中心として調査を行った。

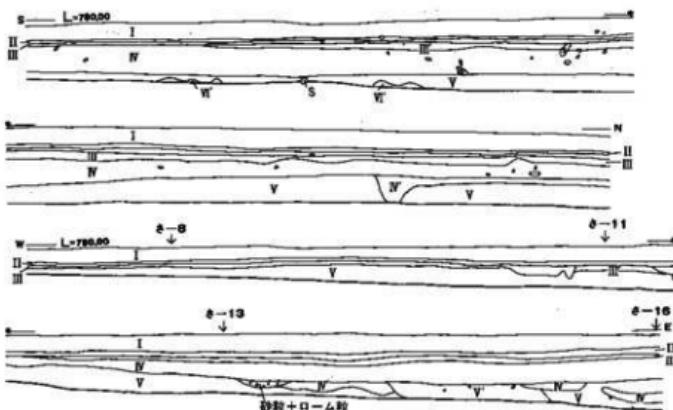
調査方法は、グリット方式により、遺構・遺物包含層の確認を持って拡張するという方法をとった。グリットは上の段の水田の北西隅を基点として主グイを10m×10mごとに東西軸に1・6・11・16～と、南北軸にあ・か・さ・た～と大別をし、さらにその中へ、2m×2mの小グリットを設けた。

出土遺物については、第III層～IV層上位まではグリットごとにまとめて取り上げ、IV層上位からV層下位までは、原則として全点図面上ヘドットをしレベルを実測した。第1号住居跡については、IV層以下を図面上にドットしレベルを測った。

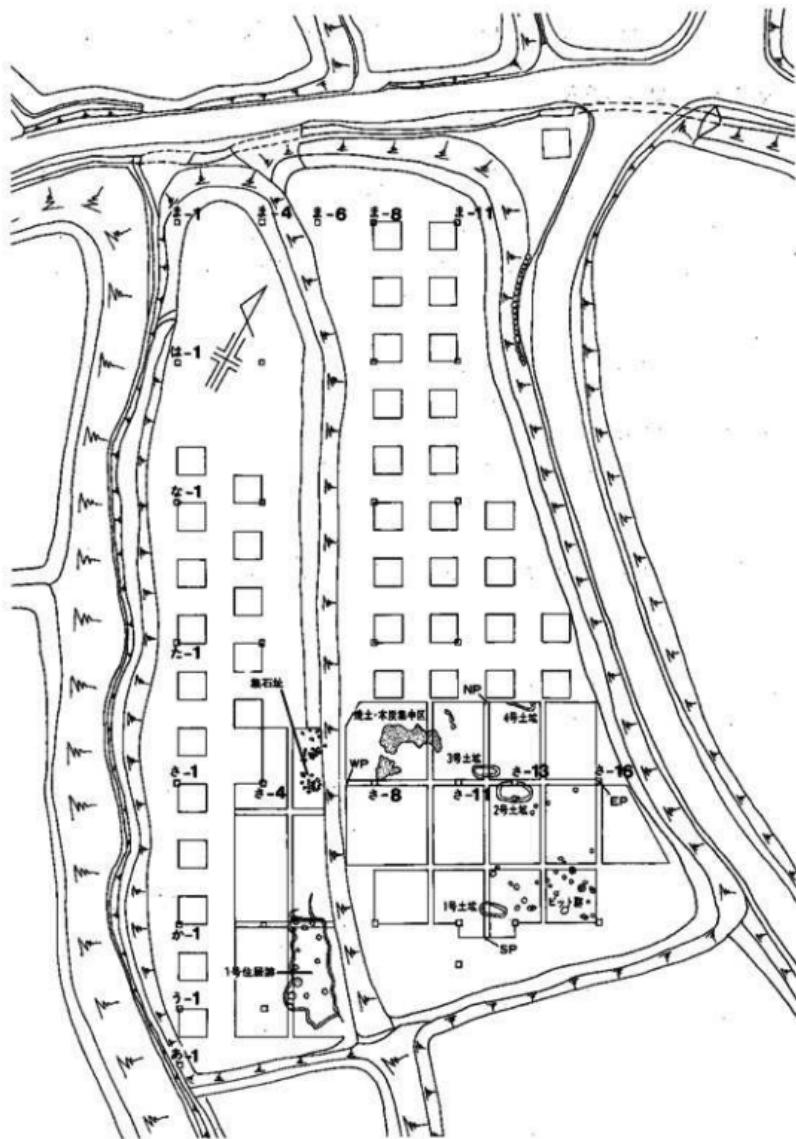
この調査により平安時代末以降の住居跡1軒と縄文時代早期末から前期にかけての土塙4基・ピット群・時代不明の集石址1ヵ所が確認された。

第2節 遺構と遺物（第5～19図、図版1～6）

当遺跡において検出された遺構は、縄文時代前期初頭に位置されうる土塙4基、縄文時代と考えられるピット群1ヵ所、平安時代後半の竪穴住居跡1軒、時代不明の集石址、焼土・木炭集中区、時代の不明確な焼土集中箇所であり、山麓先端部の川岸段丘上に築かれている。竪穴住居跡と土塙・ピット群との比高差は1.5m前後を測る。



第4図 W(さ-7)-E(さ-16)・S(か-12)-N(す-12)層位断面図(S=高)



第5図 よきとぎ遺跡遺構全体図及びグリット図(S=400)

遺物については、縄文時代早期末の条痕文土器片をはじめ、縄文前期初頭～後半、同中期後半、後期前半、平安時代半ば～後半、鎌倉時代以降～南北朝にかけてと様々な遺物が出土している。遺構に伴う遺物は全体的に少なく、主にⅢ層下層（茶褐色土）～Ⅳ層（暗褐色土）～Ⅴ層（黒褐色土）にかけて出土し、挿図に載せてある遺物はⅣ層～Ⅴ層出土のものである。

遺物の分類は以下の様に行なったが、若手の問題点を含むことはまぬがれない。

- 第I群 1類 A種 繊維は含まずやや厚手（器壁厚8mm前後）で、表裏に条痕文を施すものの。（茅山式比定）
- B種 繊維は含まず中厚手（器壁厚は5mm～8mm位）で、表裏に横・縦・斜めの条痕的な文様（調整）や擦痕がみられるもの。
- C種 繊維を多く含むが焼成が良くやや厚手で、表裏に条痕的な文様がみられるもの。
- 2類 A種 粘土紐を波状に貼り付け、その上に条線を斜めに施すもの。繊維は含まず、長石・石英の細粒が多く含み、裏面には指痕が見られる。
- B種 A種に近似し、粘土紐を口縁に並行して貼り付けたり、波状に貼り付けを行い、その上に櫛齒状施文具で横及び斜めに刺突を施すもので、口唇部にも見られる。胎土及び調整は、A種と似る。
- C種 繊維は含まず、薄手（器壁厚は4mm～5mm）で、長石・石英・雲母の細粒を多く含み、櫛齒状施文具で条線文を施すもの。
- 第II群 1類 A種 繊維を多く含み、横走する隆帯を貼り付け単節・無節の斜繩文を施すもの。器壁厚は8mm～12mm位を測る。（花積下層式比定）
- B種 繊維は含まず、薄手（器壁厚は4mm～5mm）で、縦の懸垂する隆帯を貼り付けたり、指など整形を行うもの。胎土は非常に細かく、長石粒が多く、裏面にやや指痕が見られる。（中越I式比定）
- C種 B種に近似し、薄手のものから中厚手のものまであり、表裏ともに斜めの擦痕が見られ、指痕が顕著である。繊維は含まない。口唇部にヘラ状施文具で刻み目が施されている。
- D種 C種に似るが、胎土に荒い長石・石英が多く含まれ、表裏ともに擦痕やヘラでなたと思われる荒い調整を施すもの。指痕は少なく、表面の調整は良いものもあるが裏面は荒い。繊維は含まない。
- E種 繊維を多く含み、器壁厚は5mm～8mmと中厚手で、表裏に擦痕やなたの痕跡が明らかに残るもの。第I群1類C種に似るが焼成が悪い。
- 2類 A種 繊維は含まず、長石の細粒が多く含まれ、器壁厚は8mm前後で山形口縁をなす。施文は、口縁に並行して、櫛齒状施文具で2列の引き止めを施し、胸部の単節斜繩文との境に、同施文具で刺突を行なっている。

器形は深鉢形を呈す。焼成良好。色調は淡黄灰色。(神ノ木式比定)

- 2類 B種 繊維を含み、焼成があまり良くなく、器壁厚は6mm～8mm前後でやや凹凸があるものの平口縁をなす。施文は、口縁部に沿って半截竹管状施文具で2列の刺突を刷らし、頸部にはV字状の刺突を施す。頸部と胴部の境に3条もしくは4条の沈線をひき、胴下半部には撚りのしっかりしたR-単節斜繩文と撚りのあまく纖維の荒い原体L-単節斜繩文を施している。器形は深鉢形を呈す。色調は赤褐色。表面に若干、ススが付着している。(口縁部は東海の清水ノ上II式比定されるが、全体的には当地域の土器となり得ているのではないか。)

- 第II群 3類 A種 繊維は含まず、器壁厚は8mm前後を測りやや厚手で、単節斜繩文を羽状又は斜めに施す。口唇部にも繩文や刻み目をつけている。焼成良好。
- B種 繊維を含み、器壁厚は6mm～8mmを測り、口唇部から胴下半部にかけて無節斜繩文や撚糸文を施す。色調は淡黄褐色を呈し焼成は良好である。底部には、網代や撚糸が付けられている。
- C種 繊維は含まず、原体の太い斜繩文が交差するように粗縦に施されている。長石粒を多く含み、焼成は良好である。
- D種 繊維は含まず、長石・雲母の細粒を多く含み、口唇部から「格子状斜繩文」を施す。焼成良好。
- E種 繊維を多量に含み、異状斜繩文を施すもの。

- 第III群 1類 A種 繊維を含まず、薄手(器壁厚は4mm)で、撚りの弱い斜繩文を施し、その上にヘラ状施文具で菱形を連続してついているもの。胴部は割と張り出す。

- B種 繊維を含まず、薄手(器壁厚は5mm)で、長石の細粒と雲母を多く含み、単節斜繩文を施すもの。

- 2類 A種 繊維を含まず、器壁厚は6mm～8mmと中厚手で、長石・石英粒を多く含み、施文は、単節斜繩文を施すもの。原体の太さは様々である。
- B種 当遺跡から出土した土器の中で、唯一復元が可能なものである。器形は深鉢形を呈し、調整は口縁部周辺は横・斜めのヘラ状施文具による削りで、胴下半部は条状のナデが見られる。胎土は荒い長石・石英を多く含み、焼成はやや悪い。口径16.4cm、底径8.4cm、最大胴径17.6cm、高さ30.6cm、器壁厚は8mm～12mmを測る。出土層位は砂質ローム直上で、黒褐色土(V層)下層で、当遺跡では、土塙内の次に低位の層より出土した。これらより、本土器を古い時代に位置づけたが、非常に疑問が残る。尚、底部には木葉痕が付いている。

出 土 遺 物 一 覧 表

番号	種 国	種 別	形 務	時代及び時期	特 徴	分 類
1	第19回	陶 器	長颈瓶口縫部	12C 以降	口径19.4cm、器壁厚1cm、褐色、胎土に石英を多く含む、灰白色を呈す。ナデ黒彩。	
2		#	瓶・腹部	#	器壁厚9mm、ナデ黒彩、無施、にこった白色を呈す。長石・石英を含む。	
3	土 器	深鉢・胴部		縄文前期	無文、器壁厚は5mm、細かい長石と多い石英を含む、淡褐色。	II-1-B
4	石 器	円形研磨破片			硬砂岩、手残。	
5	土 器	深鉢・胴部		縄文早期末	器壁厚は4mm、胎土黒めて緑かい。淡褐色。	1-2-B
6	第9回	#	#	# 前期	無文、裏面、胎土と同様、石英多し。器壁厚は5mm、淡褐色。	II-1-C
7						
8	第7回	土 器	深鉢・口縫部	縄文前期	素面唇沿付。器壁厚は4mm、細かい長石と多い石英を含む。淡茶褐色。	II-1-B
9		#	# 腹部	#	無文、器壁厚は5mm、細かい長石含む。淡褐色。	II-1-C
10	第7回	#	#	縄文早期末	器壁厚は6mm、無施彩。口唇部剥落あり。長石多し、淡褐色。	I-2-B
11	第9回	#	# 腹部	縄文前期	無施彩と同様、一個体。	II-1-E
12	#	#	#	#		#
13	第11回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無施彩と同様、表面無施、長石粒多し、淡褐色。	II-3-B
14		#	#	#	無文、器壁厚は6mm、細かい長石と多い石英を含む。淡茶褐色。	II-1-B
15		礫	片麻岩			
16	石 器	丸石・硬砂岩				
17	第9回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	表面とも無施、器壁厚は8mm、胎土多量、石英多し、茶褐色。	II-1-E
18	第15回	石 器	すり石		無施彩、硬砂岩、光沢。	
19	#	剥片・硬砂岩			使用痕なし。	
20	#	剥片・石英				
21	#	# 硬砂岩			使用痕なし。	
22	第17回	#	敲打器・硬砂岩		機形刃、光沢。	
23	#	剥片・硬砂岩			使用痕なし。	
24		#	#	#		
25	土 器	深鉢・蓋部		縄文前期	底径6cm、上げ直し、長石・石英多し、淡褐色。	(II-2-B)
26	第19回	須恵器	杯・口縫部	10~11C	口径12cm、ナデ黒彩、長石・石英を含む。灰褐色を呈す。	
27	土 器	深鉢・蓋・腹部		11~12C	ナデ黒彩。	
28	石 器	すり石・砂岩			無施彩、光沢。	
29	土 器	杯・口縫部		11~12C	内面、ナデ黒彩、石英・雲母を含む。淡褐色。	
30	第11回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無施彩、器壁厚は6mm、長石多し、淡褐色。	III-2-A
31		#	# 腹部	#	無文、器壁厚は5mm、長石多し、淡褐色。	II-1-D
32	石 器	剥片・硬砂岩			使用痕なし。	
33	第16回	#	すり石・花崗岩		表面の網目があり、光沢。	
34	第7回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	單弦輪縫、胎土多し、淡褐色。	II-1-A
35	石 器	丸石破片			硬砂岩。	
36	#	すり石				
37	土 器	深鉢・胴部		縄文前期	無文、器壁厚は4mm、細緻若干。石英多し、淡褐色。	II-1-E
38	土 器	环・口縫部		11~12C	内面、口唇部や外反。	
39	第7回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縫文、無施彩と同一個体。	II-1-A
40	石 器	丸石・花崗岩			西都1ヶ所、表面磨擦してある。	
41	土 器	深鉢・蓋・腹部		11~12C		
42	第16回	石 器	四石・片麻岩		西都1ヶ所。	
43	第7回	土 器	深鉢・腹部	縄文早期末	表面深い条文、器壁厚は5mm、石英多し、暗褐色。	I-1-B
44	第11回	#	#	#	無施彩、長石多し。器壁厚は6mm、淡茶褐色。	III-2-A
45	#	#	# 腹部	縄文前期	無施彩と同一個体。	III-2-A
46	第7回	#	# 胴部	# 早期末	表面とも無施文、器壁厚は6mm、石英・長石多し、淡褐色。	I-1-C
47	第15回	石 器	丸石破片		硬砂岩。	
48	土 器	深鉢・胴部		縄文前期	無文、器壁厚は4mm、表面滑感。長石・石英多し、暗褐色。	II-1-C
49	第17回	石 器	すり石・花崗岩		ほぼ全面を磨いてある。	
50		#	丸石・硬砂岩			
51	第9回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縫文、無施彩と同一個体。	II-2-B
52	#	#	#	#	#	#
53	#	#	#	#	#	#
54	第9回	#	#	#	#	#
55	石 器	すり石・片麻岩				

番号	拂 国	種 別	形 態	時代及び時期	特 権	分 類
56	拂	砂岩				
57	第19國	陶 器	杯・胸部	12C以降 11~12C	淡褐色を呈す。内面に茶褐色が付着している。石突を含む。	
58		土師器	瓶・胸部		長石多し。ナデ豊形。	
59		石 器	ナリ石・花崗岩		塊石。	
60		機	花崗岩			
61		石 器	門石・片麻岩		塊石。苔部表面2ヶ所。	
62	"	" "	"	"	" 四面1ヶ所。	
63	"	劍片・硬砂岩			使用痕なし。	
64		鐵	片麻岩			
65		石 器	丸石・硬砂岩			
66	"	" "	"	"		
67	"	劍片・硬砂岩			使用痕なし。	
68	第13國	土 器	深鉢・口縁部	繩文後期	丸輪と口縁部に沿って施す。長石多し。淡褐色。	
69		土 器	深鉢・胸部	繩文前期	斜文、No.881と同一個体。	II - 2 - B
70	第13國	"	" 胸部	繩文中期末	海螺の斜縫文の上に北縫で垂垂文・U字文を施す。石突多く含む。外面スス、内面ミコゲ付。茶褐色。	
71	"	" "	"	繩文前期	No.107と同一個体。	II - 3 - C
72	"	" 胸部	"	繩文中期末	へつ削りの上に北縫を施す。長石多し。淡褐色。	
73	"	" "	"	繩文前期	無文。器壁厚は4mm。長石・石英含む。淡褐色。	II - 1 - B
74	"	" 胸部	"	繩文中期末	No.70と同一個体。	
75	第13國	"	" "	"	横の角棒文と半周斜縫を施す。長石多し。淡褐色。	
76		石 器	礪器・硬砂岩		鉄を削り、還行してある。	
77	七 器	深鉢・胸部		繩文中期末	No.70と同一個体。	
78		鐵製品				
79		石 器	劍片・硬砂岩		打要石斧の未製品。	
80		十 器	深鉢・胸部	繩文中期末	No.70と同一個体。	
81						
82	第13國	土 器	深鉢・胸部	繩文中期末	No.70と同一個体。	
83	"	" "	"		側の陰唇部垂文と斜文を施す。長石多し。淡褐色。	
84	"	" "	"		No.70と同一個体。	
85	"	" "	"		No.70と同一個体。	
86	"	" 口縁部	"	"	S字状の突起部。	
87		鐵	砂岩			
88	"	花崗岩				
89		土 器	深鉢・胸部	繩文中期末	No.70と同一個体。	
90		石 器	劍片・硬砂岩			
91		土 器	深鉢・胸頭部	繩文中期末	北縫文と斜縫繩文を施す。長石粒多し。淡褐色。	
92		石 器	劍片・瓦石			
93		陶 器	瓦口茶碗・胸部		内外面ともに黒色の鉄釉を施す。胎土は白色。	
94	第11國	土 器	深鉢・胸部	繩文前期	No.30と同一個体。	II - 2 - A
95	"	" "	"		斜文、長石・石英・雲母多し。淡褐色。	*
96		石 器	凹石・花崗岩		西端は、上面1ヶ所、下前2ヶ所、側面2ヶ所あり。	
97						
98	第15國	石 器	丸石・硬砂岩			
99	第13國	土 器	深鉢・口縁部	繩文後期	逆張口縫をもち、無田斜縫文をつけた上に北縫で格円文を施す。長石多し。淡褐色。	
100	第15國	石 器	石皿・安山岩			
101		土 器	深鉢・胸部	繩文中期末	北縫文を施す。長石多し。淡褐色。	
102		石 器	劍片・黑曜石			
103		土 器	深鉢・胸部	繩文中期末	No.70と同一個体。	
104		石 器	丸石・粘板岩		すぐれている。	
105	"	" 硬砂岩				
106		土師器	瓶・胸部	11~12C	No.832と同一個体。	
107		須恵器	瓶・胸部	10~11C	外面に各所に叩き目を有す。器壁厚1cm。茶褐色。胎土らぎで、長石・石英粒を含む。	
108		土師器	瓶・胸部	11~12C	No.832と同一個体。	
109	"	" "	"	"		
110		鐵製品	鐵鍼		平板形。	
111		土 器	深鉢・口縁部	繩文前期	無文。器壁厚は5mm。淡褐色。石英を多く含む。	II - 1 - D

番号	構図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
112		小石	砂岩		No.832と同一個体。	
113		土器器	甕・房部	11~12C	*	
114	第12回	土器	深鉢・口縁部	縄文中期末	釣手器部のU字部と考えられる位置で施凹区画をし、列点文を施す。内面、オコゲ付 石、長石多し。淡褐色。	
115		土器器	" "	11~12C	No.832と同一個体。	
116		"	"	"	*	
117		"	"	"	*	
118		鉄製品				
119						
120		須恵器	杯・胴部	10~11C	内外ナデ彫形。灰褐色。長石を含む。	
121		土器器	甕・胴部	11~12C	No.832と同一個体。	
122		土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜竪文、織文を含む。淡褐色。	II-3-A
123		土器器	甕・胴部	11~12C	No.832と同一個体。	
124		"	"	"	*	
125		"	"	"	*	
126		石器	刮片・黒曜石			
127		石器	石匙・硬砂岩		刮片を利用してあり、木製品さを呈す。	
128	第13回	土器	釣手部破片	縄文中期末	ヘラ工具により斜点文を施している。黑色を呈す。長石粒多し。	
129		"	深鉢・胴部	"	無地の上に沈漫文を施す。淡褐色。石英多く含む。	
130		"	"	"	No.129と同一個体。	
131		石器	搔器・黒曜石			
132						
133		石器	刮片・硬砂岩			
134		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	ヘラ削りの上に沈漫と斜竪文を施す。	
135		石器	刮片・チャート			
136	第15回	"	打製石斧		ホーンフェルス。刃部欠く。	
137		石器	刮片・硬砂岩			
138		"	丸石破片	"		
139		"	"	"		
140	第13回	土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No.837と同一個体。	
141	第7回	"	"	縄文前期	单脚斜竪文、織文を施す。長石粒多し。淡褐色。長石を含む。淡褐色。	II-1-A
142		"	胴部	縄文中期末	懸垂斜竪文と斜竪文を施す。No.821と同。	
143		"	"	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。長石多し。淡褐色。	II-1-D
144		甕	破片・粘板岩			
145		土器	深鉢・胴部	縄文前期	平行斜窓を施す。器壁厚は4mm。石英多し。淡褐色。	
146		"	"	"	斜竪文。長石多し。石英多し。淡褐色。	II-1-A
147						
148		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。織文若干。石英多し。淡茶褐色。	II-1-E
149		甕	刮片・花崗岩			
150		土器	深鉢・胴部	縄文早期末	磨食器具による条状文。器壁厚は4mm。長石含む。淡灰褐色。	I-2-C
151		"	胴部	縄文中期末	No.134と同一個体。	
152		"	刮片	縄文前期	斜窓文を施す。左辺は斜窓。淡褐色。	II-2-A
153		"	"	早期末	無文。器壁厚は4mm。長石粒多し。淡褐色。	I-2-B
154		甕	釣手部破片	縄文中期末	無文。全面タール状のススが付着。石英多し。	
155		石器	丸石破片・硬砂岩			
156	第7回	土器	深鉢・胴部	縄文早期末	藝術状文具で交互の斜窓を施す。長石多し。淡褐色。	I-2-C
157		石器	刮片・硬砂岩			
158		"	すり石・花崗岩			
159		土器	深鉢・胴部	縄文早期末	無文。器壁厚は4mm。長石粒多し。淡褐色。	I-2-B
160		石器	凹石・花崗岩		凹部は、上面に2ヶ所あり。	
161		"	"		凹部は、上面に3ヶ所あり。スケッティング。	
162		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。No.708と同一個体。	II-1-E
163		"	"	"	無文。器壁厚は5mm。織文若干。長石多し。淡褐色。	"
164		石器	刮片・硬砂岩			
165	第16回	"	凹石・花崗岩		凹部は上面1ヶ所、下面1ヶ所ずつあり。	
166		"	丸石破片・硬砂岩			
167		"	刮片・硬砂岩			

番号	種 国	種 別	形 態	時代及び時期	特 徴	分 類
168						
169	石 器	ナリ石・硬砂岩				
170						
171	土師器	腹・胴部	11~12C	内外ともにハケ堅密、砂粒多し。灰褐色。		
172	土 器	深鉢〃	縄文中期末	無文、長石多く含む。淡褐色。		
173	石 器	丸石破片・頁岩				
174	陶 器	瓶・胴部	12C 以降	外面、側面・肩位のヘナラギ。灰褐色帶。胎土はやや多く供養物多し。灰褐色を呈す。		
175	第 7 団 土 器	深鉢・胴部	縄文早期末	無文、砂粒少。胎壁厚は 6mm。長石・石英多し。灰褐色。	I - 1 - C	
176	石 器	丸石破片・硬砂岩				
177	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。胎壁厚は 4mm。胎土細かい。淡褐色。	II - 1 - D	
178	第 14 団 石 器	石錐・チャート		有孔。		
179						
180	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。胎壁厚は 7mm。長石・石英含む。淡褐色。	II - 1 - D	
181	"	"	"	斜面文。長石多し。淡褐色。	II - 2 - A	
182	"	" 胸部	"	無文。胎壁厚は 5mm。施めて窓の石英含む。淡褐色。	II - 1 - D	
183	"	"	"	無文。胎壁厚は 6mm。長石・石英多し。淡褐色。	II - 1 - E	
184	石 器	剥片・黒曜石				
185	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。胎壁厚は 5mm。長石・石英多し。淡褐色。	II - 1 - D	
186	"	" 胸部	縄文中期末	Nd70と同一個体。		
187	"	" 胸部	縄文前期	無文。胎壁厚は 4mm。胎土細かい。淡褐色。	II - 1 - D	
188	"	" "	"	斜面文。長石・石英多し。淡褐色。	II - 2 - A	
189	石 器	剥片・黒曜石				
190	"	剥片・石英				
191	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。胎壁厚は 4mm。胎土細かい。淡褐色。	II - 1 - D	
192	石 器	剥片・硬砂岩				
193						
194	土 器	深鉢・口縁部	縄文前期	無文。胎壁厚は 4mm。やや外板する。長石含む。淡褐色。	II - 1 - D	
195	"	" 胸部	"	無文。長石多く含む。淡褐色。	"	
196	石 器	剥片・硬砂岩				
197						
198	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。胎壁厚は 4mm。胎土細かい。淡褐色。	II - 1 - D	
199	第 7 団 "	" 口縁部	縄文早期末	口縁にそい隆起と波状文を施り付ける。その上にくし状工具で斜点を押す。胎土細かい。淡褐色。表面スス付着。	I - 2 - B	
200						
201	小 壺	硬砂岩				
202	壺	片麻岩				
203	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	胎土細かい。淡褐色。Nd70と同一個体。	II - 3 - A	
204	"	" "	"	Nd70と同一個体。	"	
205	"	" "	"	無文。胎壁厚は 5mm。裏面削微。細かい長石含む。淡褐色。	II - 1 - D	
206	"	" "	縄文中期末	輪廓斜面の上に上彫の斜文を施す。長石少し。片麻スス付着。		
207	"	" 胸部	"	輪廓に北彫文を施す。長石多し。淡褐色。		
208	"	" "	縄文前期	無文。胎壁厚は 6mm。長石多し。淡褐色。	II - 1 - E	
209	"	" "	"	無文。胎壁厚は 5mm。長石多し。褐色。	II - 1 - D	
210	"	" "	"	無文。胎壁厚は 7mm。長石多し。褐色。	"	
211	土師器	杯・胴部	11~12C	ナデ堅密。胎土細かい。淡褐色。		
212	土 器	深鉢・胴部	縄文中期末	無文。砂粒多し。淡褐色。		
213	第 13 団 土 器	" "	"	單面斜面文を施し、裏面で、横円文を施す。長石多し。淡褐色。		
214	第 19 団 陶 器	施久利・口縁部	12C 以降	口縁 3.7cm。調整參し。長石含む。灰褐色。		
215	石 器	剥片・石英				
216	壺	剥片・硬灰岩				
217	鐵製品	円形		つまみ状を呈す。		
218	第 19 団 陶 器	碗・胴部	12C 以降	直径 7cm。ナデ堅密。底切底。付け高台。灰白色を呈す。胎土ち密。高台部スス付いている。		
219	土師器	杯・胴部	11~12C	ナデ堅密。胎土細かい。淡褐色。		
220	石 器	丸石破片・硬砂岩				
221	第 7 団 土 器	深鉢・胴部	縄文早期末	基盤状幾文による墨文。胎壁厚は 5mm。長石・石英多し。淡褐色。	I - 2 - C	
222	第 13 団 土 器	" 口縁部	縄文中期末	口唇部から外板する。斜面で区画し、前頭面文を施す。長石多し。淡褐色。		
223	"	" 胸部	縄文前期	無文。Nd70と同一個体。	II - 1 - E	

番号	擇因	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
224	石 器	剝片・黒曜石			使用痕あり。	
225	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		無文。器壁厚5mm。胎土黒かい。淡褐色。	II-1-D
226	" "	"	"		無文。No208と同一個体。	II-1-E
227	石 器	剝片・硬砂岩				
228	土 器	衆鉢・胴下部	縄文前期		斜面文。No881と同一個体。	II-2-B
229	石 器	剝片・黒曜石			使用痕なし。	
230	小 売	硬砂岩				
231	土師器	甕・胴部		11-12C	瓶底のナガ。全表面多く含む。淡褐色。	
232	"	"	"			
233	"	"	"			
234	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		無文。器壁厚は8mm。胎土若干。石英多し。淡褐色。	II-1-E
235	土師器	甕・胴部		11-12C	ナガ整形。胎土黒かい。淡褐色。	
236	土 器			時代不明	剥落が著しい。	
237	石 器	剝片・黒曜石			使用痕なし。	
238	土 器	深鉢・胴部	縄文中期末		No134と同一個体。	
239	土師器	甕・胴部		11-12C	はげ目整形。胎土黒い。外面暗褐色。	
240	第7回 土 器	深鉢・胴部	縄文平期末		表面浅い条文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。淡褐色。	I-1-B
241	第11回 "	" "	"	前期	真状斜面文。器壁・長石多し。淡褐色。表面スズ付着。	II-3-E
242	石 器	剝片・硬砂岩				
243	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		無文。器壁厚は4mm。石英・母貝含む。淡褐色。	II-1-D
244	石 器	打製器・硬砂岩				
245	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		無文。器壁厚は6mm。石英多し。淡褐色。	II-1-C
246	石 器	丸石破片・硬砂岩				
247	陶 器	長頸瓶・胴部		12C以降	No1と同一個体。	
248	石 器	剝片・硬砂岩			使用痕なし。自然剥離なし。	
249	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		無文。器壁厚は5mm。若干胎土含む。淡褐色。	II-1-E
250	石 器	剝片・黒曜石			使用痕若干あり。	
251	陶 器	長頸瓶・胴部		12C以降	No1と同一個体。	
252	土師器	甕・胴部片		11-12C	ナガ整形。胎土多く含む。淡褐色。	
253	第19回 土 器	長颈瓶・胴部		12C以降	No1と同一個体。	
254	石 器	丸石・硬砂岩				
255	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		手跡斜面文を施す。器壁厚は8mm。淡褐色。石英多く含む。	III-2-A
256	" "	胴部	縄文中期末		無文。形態多く含む。淡褐色。	
257	石 器	丸石破片・硬砂岩				
258	" "	石刻・黒曜石				
259	小 売	破片・硬砂岩				
260	土師器	甕・胴部		11-12C	瓶底のナガ。石英多く含む。淡褐色。	
261	第16回 石 器	四石・片麻岩			四部は、上面2ヶ所、下面1ヶ所。	
262	" "	" "	"		四部は、上面1ヶ所、下面1ヶ所。	
263	"	すり石			塊石。ほぼ全面削りである。	
264	"	四石・片麻岩			塊石。四部は、上面1ヶ所、局部的に削りである。	
265	第17回 "	" "	"		四部は上面2ヶ所、下面1ヶ所。白石。	
266	"	石刻・硬砂岩			やや入突している。	
267	"	四石・片麻岩			四部は、上面1ヶ所。	
268	第17回 "	" 片麻岩			西部は、上面1ヶ所、スズ付でいる。白石。	
269	" "	" "			西部はなめらかで、上面1ヶ所。	
270	土 器	深鉢・胴部	縄文中期末			
271	第7回 "	" 口唇部	縄文前期		陶痕あり。口唇部のみ目あり。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡褐色。	II-1-C
272	" "	胴部	"		無文。ナガ痕あり。胎土黒かい。淡褐色。器壁厚は4mm。	II-1-E
273	" "	" "	"		無文。No708と同一個体。	#
274	"	深鉢・胴部	"		無文。器壁厚は4mm。石英多し。淡褐色。	II-1-D
275	石 器	剝片・黒曜石				
276	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		無文。器壁厚は5mm。芸苔多し。淡褐色。	II-1-D
277	石 器	打製石斧			硬砂岩。刃部4ヶ所。	
278	"	すり石・硬砂岩			円形で側面を敲打している。下面に凹凸あり。	
279	"	四石・片麻岩			塊石。四部は上面1ヶ所、下面1ヶ所。	
280	"	すり石 "				

番号	拂 国	種 別	形 态	時代及び時期	特 権	分 類
281						—
282	石 器	丸石磨片・砾砂岩				
283	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。粘土含む。石英多し。淡褐色。	II-1-D	
284	礫	片砂岩				
285	第9回 土 器	深鉢・胴部	縄文前期	表裏とも拂痕。器壁厚は7mm。繊維多量。石英多し。淡褐色。	II-1-E	
286	土 器	深鉢	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。石英多し。淡褐色。	II-1-D	
287	第9回 "	" 脇部	"	無文。器壁厚は8mm。細かい長石多し。表面拂痕あり。暗褐色。	II-1-C	
288	石 器	四石・片麻岩		西面は上蓋1ヶ所。		
289	第7回 土 器	深鉢・口縁部	縄文早期末	器壁厚4mm。長石多し。口唇部を除き。灰褐色。	I-2-A	
290	第11回 "	" 脇部	縄文前期	No.1029と同一個体。	II-1-A	
291	石 器	打製石斧		硬砂岩。鋸片石器であり。使用痕あり。		
292	"	刮片・硬砂岩		苦土使用痕あり。		
293	第7回 土 器	深鉢・胴部	縄文早期末	表裏・斜面刷文。裏面指痕。器壁厚は7mm。長石・石英多し。淡褐色。	I-1-C	
294	土 華	擦	深鉢・胴部	ナメ整軋。長石多く含む。淡褐色。		
295	"	擦	深鉢	表へラ削り。砂粒多く含む。淡褐色。		
296	石 器	刮片・黒曜石		使用痕なし。		
297	—	—	—	—	—	—
298	第7回 土 器	深鉢・口縁部	縄文早期末	外裏・斜面刷文。裏面指痕。器壁厚は4mm。石英多し。暗褐色。	I-1-B	
299	—	—	—	—	—	—
300	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は7mm。長石・石英・雲母多し。淡褐色。	II-1-D	
301	"	" 脇部	"	無文。器壁厚は5mm。石英・雲母多し。淡褐色。	II-1-B	
302	石 器	丸石・硬砂岩				
303	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。No.301と同一個体。	II-1-B	
304	—	—	—	—	—	—
305	石 器	四石・片麻岩		西面は上蓋2ヶ所。		
306	土 器	深鉢・胴部	縄文早期末	無文。器壁厚は4mm。粘土極めて細かい。淡黄褐色。	I-2-B	
307	石 器	石錐・チャート		片蓋と斜面部欠く。		
308	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。細かい長石と青い石英含む。暗褐色。	II-1-B	
309	"	" 脇部	"	表裏とも拂痕。器壁厚は4mm。繊維若干。長石・淡褐色。	II-1-E	
310	"	" 脇部	"	無文。器壁厚は5mm。長石含む。淡黄褐色。	II-1-D	
311	小 磨	刮片・硬砂岩				
312	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。細かい長石・石英含む。淡褐色。	II-1-B	
313	"	" "	"	無文。No.708と同一個体。	II-1-E	
314	"	胴部	"	無文。器壁厚は5mm。粘土細かい。淡灰褐色。	II-1-D	
315	第9回 土 器	" "	"	無文。裏面指痕。器壁厚は4mm。細かい長石。淡黄褐色。	II-1-C	
316	"	" 脇部	"	無文。器壁厚は5mm。長石・雲母多し。淡褐色。	II-1-D	
317	第9回 土 器	" "	"	表裏指痕。裏面指痕。器壁厚は6mm。石英多し。暗褐色。	II-1-E	
318	石 器	刮片・硬砂岩				
319	"	丸石・粘板岩				
320	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。No.708と同一個体。	II-1-E	
321	"	胴部	"	無文。器壁厚は4mm。粘土細かい。淡褐色。	II-1-B	
322	第15回 石 器	打製石斧		全品品。硬砂岩。		
323	"	石錐・黒曜石		片蓋部欠く。		
324	—	—	—	—	—	—
325	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。淡灰褐色。	II-1-D	
326	"	" 脇部	縄文早期末	粘土縁と縁に又方に貼り付けてある。長石・石英多し。淡褐色。器壁厚は4mm。	I-2-B	
327	第7回 土 器	" "	"	器壁厚5mmによる表裏刷文。器壁厚は5mm。長石・雲母。淡褐色。	I-2-C	
328	"	" 脇部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。粘土極めて細かい。淡褐色。	II-1-D	
329	"	" "	"	剥落著しい。		
330	—	—	—	—	—	—
331	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は6mm。若干繊維含む。淡灰褐色。	II-1-E	
332	第7回 土 器	" "	縄文早期末	表裏斜面刷文。器壁厚は6mm。長石多し。淡灰褐色。若干繊維含む。	I-1-A	
333	"	" "	縄文前期	無文。No.708と同一個体。	II-1-E	
334	"	" 脇部	早中期末	全品文。器壁厚は6mm。表裏大穴付。長石多し。暗褐色。	I-1-B	
335	小 磨	砂岩				
336	第16回 石 器	と石・片麻岩				
337	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	弱表文。No.81と同一個体。	II-2-B	

番号	地図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
338	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文早期末	垂張文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。淡褐色。	I-1-B
339		小 磨	破片・硬砂岩			
340		石 器	すり石・片岩		挫状を呈す。上・下面のみすってある。	
341		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	垂張文。器壁厚は5mm。暗い長石と亮い石英含む。淡褐色。	II-1-D
342		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	斜垂張文。No.338と同一個体。	II-2-B
343		小 磨	剥片・硬砂岩			
344						
345		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	No.30と同一個体。	II-2-A
346	第7図	#	# 口縁部	#	無文。口縁部のみ目あり。器壁厚は4mm。黒い石英含む。淡褐色。	II-1-C
347	"	#	# 胸部	#	無文。器壁厚は4mm。亮い石英含む。暗褐色。	II-1-B
348	"	#	# #	#	No.601と同一個体。	II-3-A
349	"	#	# #	#	斜垂張文。No.601と同一個体。	II-2-B
350	"	#	# #	#	無文。器壁厚は5mm。長石多し。淡褐色。	II-1-D
351	第9図	#	# #	#	無文。器壁厚は5mm。長石多し。淡褐色。	II-1-E
352	第7図	#	# #	#	半輪鉢垂張文。鐵錫・長石多し。淡褐色。	II-1-A
353		石 器	凹形磨擦器		硬砂岩。	
354		#	敲打器		硬砂岩。局部的に敲打してある。	
355	第7図	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	斜垂張文。No.783と同一個体。	II-1-A
356	"	#	# 口縁部	#	表面削落者しい。器壁厚は6mm位。長石・石英多し。淡褐色。	
357		小 磨	砂岩			
358		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡褐色。	II-1-D
359		小 磨	剥片・硬砂岩			
360		石 器	凹石・片麻岩		西面は上面1ヶ所。	
361		#	すり石・花崗岩		象石。ほぼ全面すってある。	
362	第9図	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。粘土含む。淡褐色。	II-1-C
363	"	#	# #	#	無文。器壁厚は4mm。石英多し。淡褐色。	II-1-D
364	第17図	石 器	すり石・花崗岩			
365	"	#	丸石破片・硬砂岩			
366	"					
367	第9図	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は6mm。鐵錫若干・砂粒含む。淡褐色。	II-1-E
368	"					
369		石 器	凹石・片麻岩		西面は片面に1ヶ所あるが、半周は剥落している。	
370	第15図	"	石錐・硬砂岩			
371	"	#	すり石・花崗岩			
372	第17図	"	# 片麻岩			
373	第9図	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	斜垂張文。No.601と同一個体。	II-2-B
374	"	#	# 胸部	#	無文。器壁厚は5mm。黒い長石・石英多し。暗褐色。	II-1-D
375	第14図	石 器	石鉢・チャコト			
376	第9図	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	斜垂張文。No.601と同一個体。	II-2-B
377	"	#	# #	#	無文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。淡褐色。	II-1-D
378	"	#	# #	#	無文。器壁厚は4mm。粘土錫含む。淡褐色。	"
379	第9図	#	# # #	#	斜垂張文。No.601と同一個体。	II-2-B
380		小 磨	花崗岩			
381		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は7mm。長石・雲母多し。淡褐色。	II-1-D
382		石 器	すり石破片		硬砂岩	
383	"	#	丸石砂片		硬砂岩	
384	第16図	"	凹石・片麻岩		凹部は、上面1ヶ所、下面1ヶ所。	
385	"	#	丸石・片岩			
386		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。表面削成。石英多し。暗褐色。	II-1-C
387	"					
388		穂	剥片・硬砂岩			
389		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。砂粒含む。淡褐色。	II-1-D
390	第15図	石 器	剥片石錐		硬砂岩。	
391	"	#	破片・硬砂岩			
392	"	#	凹石・片麻岩		凹部は、上面1ヶ所、下面は剥花。	
393	土器群	塵・胴部	11-12C	No.632と同一個体。		
394	"					

番号	構図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
395		小 球	片麻岩			
396		"	"			
397		土器器	甕・胴部	11~12C	外面、窓いヘラナデ。内面ナデ笠形。石英を含む。淡褐色を呈し。スヌケている。	
398						
399						
400		小 球	片麻岩			
401	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		無文。器壁厚は5mm。長石多し。淡灰褐色。	H-1-D
402	"	" "	" 中期末		無文。長石・石英多し。淡黃褐色。	
403	球	球形片岩				
404	土 器	すり石・片麻岩				
405	球	剝片・硬砂岩				
406	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		剥落著しい。石英多し。淡褐色。	
407						
408	石 鋸	石核・黒曜石				
409	"	"	片麻岩			
410	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		無文。器壁厚は4mm。粘土膜かい。淡灰褐色。	H-1-D
411	"	"	胴部	縄文中期末	器表をV字溝に貼り付けている。長石多し。淡褐色。	
412	"	"	胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。長石多し。淡黃褐色。	H-1-D
413						
414	土 器	深鉢・胴部	縄文中期末		側面垂重文と、横筋繩文を施す。長石多し。淡褐色。	
415	"	" "	縄文前期		無文。器壁厚は4mm。石英多し。淡褐色。	H-1-B
416	小 球	花崗岩				
417	"	"				
418	"	"				
419	"	"				
420	第9図	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	表面ともに擦痕。器壁厚は6mm。長石・石英多し。暗褐色。表面スス、裏面オカゲ付着。	H-1-E
421	小 球	片麻岩				
422	石 器	凹石・片麻岩			凹部は、上面1ヶ所、下面1ヶ所。	
423	小 球	花崗岩				
424	球	"				
425	"	"				
426	土 器	深鉢・口縁部	縄文前期		Kurokoと同一書体。	H-3-A
427	"	" 脱部	"		無文。器壁厚は5mm。石英多し。淡褐色。	H-1-D
428	"	" "	"		鉛垂文。長石粒多し。淡褐色。	H-2-A
429	石 器	剝片・石英				
430	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		無文。器壁厚は4mm。石英多し。淡褐色。	H-1-D
431	球	剝片・硬砂岩				
432	小 球	花崗岩				
433	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		無文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。暗褐色。	H-1-D
434	小 球	片麻岩				
435	"	剝片・硬砂岩				
436	"	" "				
437	石 器	丸石・硬砂岩				
438	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		無文。器壁厚は5mm。粘土膜かい。淡褐色。	H-1-D
439	"	" "	"		無文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。淡褐色。	"
440						
441	小 球	花崗岩				
442	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		擦痕を施す。器壁厚は7mm。石英多し。淡褐色。	H-1-C
443	石 器	凹石・片麻岩			凹石。凹部は下面に1ヶ所。	
444	球	花崗岩				
445	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		擦痕あり。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡褐色。	H-1-C
446	石 器	剝片・黒曜石			使用痕なし。	
447	"	" チャート			"	
448	"	丸石破片			硬砂岩。	
449	"	石核・黒曜石				
450	"	丸石破片			硬砂岩。	
451	土 器	深鉢・胴部	縄文前期		無文。器壁厚4mm。裏面擦痕。暗かい長石と窓い石英。淡灰褐色。	H-1-E

番号	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
452	石 器	剥片・黒曜石		使用痕若干あり。	
453	土 器	深鉢・口縁部	縄文前期	Na570と同一個体。	III-3-A
454	石 器	丸石・硬砂岩			
455	#	すり石・片麻岩			
456	—	—	—	—	—
457 第9回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。石英多し。暗褐色。	II-1-D
458 第11回	#	#	#	Na464と同一個体。	II-3-B
459	礫	片麻岩			
460	石 器	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
461	小 磨	砂岩			
462	礫	硬砂岩			
463 第11回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	Na613と同一個体。	III-2-A
464 #	#	#	#	無磨削繩文。表面粗粒と推測。長石粒多し。淡黃褐色。	II-3-B
465 小 磨	砂岩				
466 磨	破片・花崗岩				
467 土師器	甕・胴部	11-12C		Na832と同一個体。	
468 土 器	深鉢・胴部	縄文前期		手縫紡繩文を施す。器壁厚は6mm。胎土細かい。淡褐色。	III-2-A
469 #	#	#	縄文中期末	Na621と同一個体。	
470 石 器	すり石・硬砂岩			敲打してある。神狀を呈す。	
471 磨	破片・片麻岩				
472 石 器	剥片・黒曜石			使用痕なし。	
473 土 器	釣手部破片	縄文中期末		無文。断面V字状をなし。中央部で凹形をなす。淡褐色。	
474 石 器	丸石破片			硬砂岩。	
475 土 器	深鉢・胴部	縄文中期末		Na621と同一個体。	
476 第13回	#	#	#	#	
477 #	#	#	#	#	
478 #	#	#	#	#	
479 #	#	#	#	#	
480 第16回	石 器	凹石・片麻岩		すすか付着。凹部は上面4ヶ所、下面1ヶ所。	
481 小 磨	破片・片麻岩				
482 土 器	深鉢・胴部	縄文中期末		Na621と同一個体。	
483 #	#	#	#	#	
484 #	#	#	#	#	
485 #	#	#	#	#	
486 #	#	#	#	#	
487 #	#	#	#	#	
488 #	#	#	#	#	
489 #	#	#	#	#	
490 石 器	剥片・黒曜石				
491 —	—	—	—	—	—
492 陶 器	环	12C以降		灰陶。胎土はち密で灰白色。	
493 土 器	深鉢・胴部	縄文中期末		Na70と同一個体。	
494 小 石	砂岩				
495 土 器	深鉢・胴部	縄文中期末		施磨削繩文を施す。長石粒多く含む。淡黃褐色。	
496 #	#	#	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡褐色。	II-1-D
497 #	#	#	縄文中期末	Na134と同一個体。	
498 #	#	#	#	Na620と同一個体。	
499 土器	杯・口縁部			口縁部や中外反。十字彫形。金雲母多く含む。淡褐色。	
500 石 器	丸石・硬砂岩				
501 土 器	深鉢・胴部	縄文中期末		Na621と同一個体。	
502 小 磨	剥片・硬砂岩				
503 小 石	砂岩				
504 小 磨	片麻岩				
505 #	剥片・硬砂岩				
506 土器	甕・胴部	11-12C		ヘラ削り。内面ハケ目彫形。砂粒多く含む。淡褐色。	
507 石 器	剥片・黒曜石			使用痕なし。	
508 小 磨	#	絆片石			

番号	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
509	小 器	片麻岩			
510	"	剥片・砂岩			
511	石 器	石鎌・黒曜石		片頭大く。	
512	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。砂粒含む。淡褐色。	II-1-D
513	"	" "	"	無文。器壁厚は4mm。粘土層かい。淡褐色。	"
514	"	" 脇下部	"	無文。器壁厚は6mm。暗かい長石と多い石英含む。淡褐色。	II-1-B
515	"	" 脇部	" 中期末	No.15と同一個体。	
516	石 器	丸石・砂岩岩		輪郭すってある。	
517	土 器	深鉢・胴部	縄文中期末	No.15と同一個体。	
518	石 器	石核・砂岩岩			
519	"	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
520	"	丸石・砂岩岩			
521	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。多い長石と暗かい長石含む。淡褐色。	II-1-C
522	"	" 剥片	"	無文。器壁厚は4mm。砂粒多く含む。淡褐色。	II-1-D
523	石 器	片麻岩		幾石。	
524	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	No.15と同一個体。	II-2-A
525	石 器	凹石・片麻岩		西面は上面に1ヶ所。	
526	石 器	剥片・砂岩岩			
527	石 器	丸石破片・砂岩			
528	"	凹石・片麻岩		西面は、上面3ヶ所、下面3ヶ所。	
529	"	すり石・砂岩岩			
530	"	すり石・花崗岩			
531	土 器	不明	縄文	斜面著しい。	
532	"	" 剥片	" 前期	斜面文。No.683と同一個体。	II-2-B
533	"	" 剥片	" "	無文。No.709と同一個体。	II-1-E
534	"	" 剥片	" "	斜面著しい。	
535	第11図	"	" "	No.1017と同一個体。	II-3-C
536	石 器	破片・砂岩			
537	第13図	上 器	深鉢・口縁部	縄文中期末	斜面斜面の上に此端で両面を施す。石英多し。淡褐色。
538	"	" 剥片	" 前期	無文。器壁厚は4mm。石英多く含む。灰褐色。	II-1-C
539	第16図	石 器	凹石・花崗岩		幾石。口部は上面1ヶ所、下面1ヶ所。下部はすってある。
540	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	斜面文。No.683と同一個体。	II-2-B
541	石 器	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
542	第11図	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	No.1012と同一個体。
543	"	" 口縁部	"	斜面文。No.683と同一個体。	II-2-B
544	"	" 剥片	"	無文。表面指痕。器壁厚は5mm。長石・石英多し。淡褐色。	II-1-D
545	—	—	—	—	—
546	第11図	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	No.1022と同一個体。
547	小 石	砂岩			
548	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	斜面あり。器壁厚は5mm。粘土層かい。淡茶褐色。	II-1-C
549	"	" "	"	無文。器壁厚は4mm。粘土層かい。淡褐色。	II-1-D
550	"	" "	"	無文。器壁厚は4mm。粘土層かい。淡褐色。	"
551	小 器	片麻岩			
552	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無斜面文。更石粒多し。裏面擦痕。淡褐色。	II-3-B
553	第11図	"	" "	No.1017と同一個体。	II-3-C
554	石 器	剥片・黒曜石			
555	第9図	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。裏面多量・暗かい長石含む。淡褐色。
556	—	—	—	—	—
557	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	斜面あり。器壁厚は4mm。長石多し。淡茶褐色。	
558	"	" "	"	無文。器壁厚は5mm。長い長石・石英多し。淡褐色。	II-1-D
559	"	" 剥片	"	無文。器壁厚は4mm。石英多し。淡褐色。	"
560	"	" "	"	無文。器壁厚は5mm。石英多し。暗褐色。	"
561	"	" "	"	No.560と同一個体。	"
562	石 器	丸石・片岩			
563	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	斜面あり。器壁厚は5mm。粘土層かい。淡褐色。	II-1-C
564	石 器	丸石・砂岩岩			
565	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は9mm。石英多し。淡褐色。	II-1-D

番号	捕 国	種 別	形 番	時代及び時期	特 徴	分 類
566	第15回	石 器	打製石斧・破片		縫合片岩。器脇部で、表面と刀部少く。	
567	第 7 回	土 器	深鉢・胴上部	縄文早期末	器壁厚5mm。長石・石英多し。淡茶褐色。	I-2-A
568	第 9 回	" "	胴部	" 前期	無文。裏面削面。器壁厚は6mm。細かい長石。淡褐色。	II-1-C
569	" "	" "	" "	" "	無文。器壁厚は5mm。石英多し。淡褐色。	II-1-D
570	石 器	剥片・黒曜石				
571	"	円形敲打器			硬砂岩。表面を磨いている。	
572	土師器	杯・胴部	11-12C		内良。ナデ壁。金墨多し。淡茶褐色。	
573	第11回	土 器	深鉢・口縁部	縄文前期	No.465と同一個体。	II-3-B
574	第17回	石 器	円形敲打器		硬砂岩。表面を磨いている。	
575	"	剥片・チャート			使用痕なし。	
576	土 器	深鉢・胴部		縄文前期	無文。器壁厚は4mm。粘土層かい。淡茶褐色。	II-1-D
577	"	"	"	"		
578	第 7 回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。細かい長石と石英含む。淡褐色。	II-1-B
579	"	"	"	"		
580	土 器	深鉢・胴部		縄文前期	剥落著しい。器壁厚は5mm。砂粒多し。茶褐色。	
581	小 壺	片麻岩				
582	第13回	土 器	深鉢・胴部	縄文中期末	器底を2枚、波状に貼り付け、その上にヘラ先で鉛み目を施す。長石多し。淡褐色。	
583	小 壺	砂岩				
584	土 器	深鉢・底部		縄文中期末	網代底。	
585	第11回	土 器	深鉢・側体	縄文前期	No.870と同一個体。	III-3-A
586	"	"	"	"	"	B
587	"	"	"	"	"	B
588	"	"	"	"		
589	土 器	深鉢・胴部		縄文前期	無文。器壁厚は5mm。粘土層かい。淡茶褐色。	II-1-D
590	"	"	"	"	無文。器壁厚は4mm。粘土層かい。淡褐色。	B
591	理	剥片・硬砂岩				
592	小 石	砂岩				
593	第11回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	No.969と同一個体。	III-1-B
594	"	"	"	"	無文。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡褐色。	II-1-D
595	第 7 回	"	"	" 早期末	表層とも擦痕文。器壁厚は5mm。石英多し。淡褐色。	I-1-C
596	小 壺	花崗岩				
597	土 器	深鉢・胴部		縄文前期	No.953と同一個体。	II-2-A
598	"	"	"	"		
599	石 器	剥片・黒曜石			使用痕なし。	
600	土 器	深鉢・胴部		縄文前期	無文。器壁厚は4mm。粘土層かい。淡茶褐色。	II-1-D
601	第11回	"	"	口縁部	単筋の縄文。表層擦痕あり。長石・石英多し。淡茶褐色。	II-3-A
602	"	"	"	"		
603	土 器	深鉢・胴部		縄文前期	No.953と同一個体。	II-2-A
604	"	"	"	"	単筋の縄文が羽状に施す。長石・石英多し。淡褐色。	
605	"	"	"	"	無文。	
606	"	"	"	"	無文。	
607	第 7 回	"	深鉢・口縁部	縄文早期末	器壁厚は4mm。表層擦痕あり。長石・石英多し。淡褐色。	I-2-B
608	"	"	剥片	" 前期	無文。器壁厚は5mm。石英多し。淡褐色。	II-1-D
609	石 器	すり石・花崗岩				
610	土 器	深鉢・胴部		縄文前期	No.881と同一個体。	II-2-B
611	石 器	石核・黒曜石				
612	"	巴石・片麻岩			巴部は、上面2ヶ所、側面1ヶ所。	
613	第11回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	斜面文。長石・石英多し。淡褐色。	III-2-A
614	石 器	丸石破片・硬砂岩				
615	石 器	凹石・片麻岩			凹面は、上面に1ヶ所。台石。	
616	"	剥片			使用痕なし。	
617	"	丸石破片・硬砂岩				
618	土 器	深鉢・胴部		縄文前期	無文。No.708と同一個体。	II-1-E
619	"	"	"	"	無文。器壁厚は4mm。裏面削面かい。長石・石英。淡褐色。	II-1-C
620	石 器	丸石・硬砂岩				
621	土 器	深鉢・胴部		縄文前期	無文。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡茶褐色。	II-1-D
622	理	剥片・硬砂岩			使用痕なし。	

番号	拂 国	種 別	形 態	時代及び時期	特 徵	分 類
623	第 7 国	土 器	深鉢・胴部	绳文前期	縦書き文と斜書き文。黒漆・長石多し。器壁厚は 8mm。淡茶褐色。	II-1-A
624		■	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
625		石 器	門石・片麻岩		西面は上層 1ヶ所、下層 1ヶ所。	
626		土 器	深鉢・胴部	绳文前期	縦文。器壁厚は 4mm。黒石多し。淡茶褐色。	II-1-C
627		石 器	門石・片麻岩		西面は上面 1ヶ所。	
628		■	破片・花崗岩			
629		■	剥片・硬砂岩			
630		石 器	門石・片麻岩		西面は上層 2ヶ所、下層 1ヶ所。	
631	第 15 国	■	すり石・硬砂岩		ほぼ全面にわたる。	
632		■	四石・片麻岩		西面は下層 1ヶ所。	
633		■	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
634		土 器	深鉢・胴部	绳文前期	表面面漆付。基面漆付。黒い長石・石英。器壁厚は 5mm。淡茶褐色。	II-1-C
635						
636		土 器	深鉢・胴部	绳文前期	斜書き文。No.683 と同一個体。	II-2-B
637		■	■	■	縦文。器壁厚は 5mm。淡茶褐色。	II-1-E
638		■	■	■	斜書き文を施す。器壁厚は 8mm。砂粒多し。淡茶褐色。	II-2-A
639		■	■	■	斜書き文。No.683 と同一個体。	II-2-B
640		石 器	門石・片麻岩		包装は下面に 1ヶ所。	
641		■	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
642		土 器	深鉢・胴部	绳文前期	縦文。器壁厚は 9mm。長石・石英多し。淡茶褐色。	II-1-D
643						
644		土 器	深鉢・胴部	绳文中期	縦文。砂粒多く含む。淡茶褐色。	
645		■	■	■ 前期	縦文。器壁厚は 4mm。長石・石英多し。淡茶褐色。	II-1-D
646		石 器	剥片・黒曜石		使用痕あり。	
647		土 器	深鉢・胴部	绳文前期	縦文。器壁厚は 5mm。黄石多し。淡茶褐色。	II-1-D
648		■	■	■	非斜書き文。黒石・長石・石英多し。淡茶褐色。	II-1-A
649		石 器	すり石・安山岩			
650		土 器	深鉢・胴部	绳文前期	縦文。器壁厚は 5mm。黒石多し。淡茶褐色。	II-1-D
651		■	口縁部	■	No.683 と同一個体。	II-3-D
652		■	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
653		石 器	敲打器破片		■	
654		土器	甕・底部	11-12C	木製圧痕あり。ヘラ壓痕。長石・石英多し。底径 30mm。淡茶褐色。	
655		陶 器	皿	12C 以降	灰物。No.933 と同一個体。	
656		石 器	丸石・硬砂岩			
657						
658		石 器	すり石・花崗岩		丁番をすてある。	
659		土 器	深鉢・胴部	绳文前期	斜書き文。No.30 と同一個体。	II-2-A
660		土器	甕・胴部	11-12C	口に豊形。砂粒多し。淡茶褐色。	
661		■	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
662	第 7 国	土 器	深鉢・口縁部	绳文前期	口縁部剥み目あり。器壁厚は 4mm。黒い雲母・長石・石英多し。淡茶褐色。	II-1-C
663	小 ■ 硬 砂 岩					
664		土 器	深鉢・胴部	绳文前期	縦文。器壁厚は 4mm。粘土石多し。淡茶褐色。	II-1-D
665		陶 器	甕・口縁部	12C 以降	灰物。ナメ物。胎土は灰白色を呈す。	
666		■	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
667		土 器	深鉢・胴部	绳文前期	縦文。器壁厚は 6mm。砂粒多し。淡茶褐色。	II-1-D
668		■	■	■	縦文。器壁厚は 5mm。長石多し。淡茶褐色。	
669	第 7 国	■	■	■ 平脚木	表面漆付。裏面漆付。器壁厚は 7mm。黒漆・長石多し。淡茶褐色。	I-1-C
670		石 器	右舷・黒曜石			
671		土 器	深鉢・胴部	绳文中期	剥落が著しい。長石・石英・雲母多し。淡茶褐色。	
672		■	■	■ 前期	縦文。器壁厚は 5mm。粘土石多し。淡茶褐色。	II-1-D
673		■	■	中期末	No.134 と同一個体。	
674		■	■	■ 脱部	剥離を施す。黒い長石多し。淡茶褐色。	
675		■	■	■ ■	砂粒文と懸垂文を施す。砂粒多し。淡茶褐色。	
676		石 器	敲打器		硬砂岩。問題を疑っている。	
677		土 器	深鉢・胴部	绳文中期	No.174 と同一個体。	
678						
679		土 器	深鉢・胴部	绳文前期	加刷の纏文を押捺している。器壁厚 5mm。長石多し。淡茶褐色。	II-3-B

番号	攝 図	種 別	形 態	時代及び時期	特 徴	分 類
680	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	圓底あり。器壁厚は5mm。石英粒多し。淡茶褐色。	II-1-C	
681	"	" "	" "	斜端文。石英多し。淡褐色。	III-2-A	
682	"	" "	" "	斜端文。長石多し。淡褐色。	III-2-A	
683	"	" "	" "	無文。器壁厚は4mm。石英粒含む。淡茶褐色。	II-1-D	
684	"	" "	" 早期末	表面最も滑潤文。器壁厚は6mm。白雲母・石英多し。淡褐色。	I-1-C	
685	第11図	" "	"	無文と同一個体。	II-3-A	
686	土師器	杯・胴底部	11-12C	ナガ彫刻。胎土は白。淡褐色。底面は開口ず。		
687	第13図	土 器	深鉢・胴部	縄文中期末	瓶の腹巻垂文と並列文を施す。長石・石英多し。外面スス付有。茶褐色。	
688	"	" "	" "	No687と同一個体。		
689	"	" "	" 前期	剥落が大きい。器壁厚は7mm。砂粒多し。淡茶褐色。		
690	第17図	石 器	円形敲打器		砂呑。表面を敲打している。	
691	"	剥片・黒曜石		使用痕なし。		
692	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。石英粒多し。淡褐色。	II-1-D	
693	—	—	—	—	—	—
694	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	表面滑らか。器壁厚は5mm。長石・石英多し。茶褐色。	II-1-D	
695	"	" "	" "	表面滑らか。表面滑らか。器壁厚は5mm。細かい長石。淡褐色。	II-1-C	
696	第7図	"	口縁部	早中期	器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡茶褐色。	I-2-B
697	"	" "	前段	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡褐色。	II-1-D	
698	—	—	—	—	—	—
699	第17図	石 器	円形敲打器		丸頭孔。ススけてある。表面を敲打している。	
700	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。細緻多骨・石英多し。淡茶褐色。	II-1-E	
701	陶 器	剥片・硬砂岩		剥片・硬砂岩	使用痕なし。	
702	石 器	" "		剥片・石器。若干使用痕あり。		
703	土 器	深鉢・胴部	縄文中期	No72と同一個体。		
704	"	" "	" 前期	無文。器壁厚は5mm。石英粒多し。淡褐色。		
705	第7図	"	" "	表面とも滑潤文。器壁厚は7mm。鐵器・石英・長石多し。淡褐色。	I-1-C	
706	陶	剥片・硬砂岩		使用痕なし。		
707	陶 器	瓶・口縁部	11-12C	No2と同一個体。		
708	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。鐵器若干・細かい長石多し。淡褐色。表面スス付有。	II-1-E	
709	陶	片麻岩		使用痕なし。		
710	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	No50と同一個体。	II-2-A	
711	石 器	円形敲打器		硬砂岩。		
712	"	丸石・硬砂岩				
713	第7図	土 器	深鉢・口縁部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。細かい長石と荒い石英含む。淡褐色。	II-1-B
714	"	" "	"	No613と同一個体。	III-2-A	
715	"	" "	口縁部	無文。器壁厚は4mm。砂粒多く含む。淡褐色。	II-1-D	
716	第16図	石 器	門石・片麻岩		四面は、上面1面所、下面1面所。	
717	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。砂粒多く含む。淡茶褐色。	II-1-D	
718	小 石	砂岩				
719	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。砂粒多く含む。淡茶褐色。	II-1-D	
720	第11図	"	口縁部	"	No670と同一個体。	III-3-A
721	"	" "	"	"	"	"
722	"	" "	"	"	"	"
723	石 器	剥片・黒曜石		使用痕あり。		
724	第9図	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡褐色。	II-1-D
725	陶 器	碗・胴部	11-12C	淡青色釉。胎土は白。灰白色を呈す。		
726	陶	剥片・硬砂岩				
727	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。胎土細かい。淡褐色。	II-1-D	
728	"	" "	"	表面滑潤文を施す。器壁厚は6mm。長石粒多し。淡褐色。	III-2-A	
729	"	" "	"	無文。器壁厚は6mm。砂粒多く含む。淡褐色。	II-1-D	
730	"	" "	縄文中期末	No34と同一個体。		
731	石 器	剥片・黒曜石		使用痕なし。		
732	第13図	土 器	杓子部破片	縄文中期末	ヘラ先で両立点を滑円状に施す。石英多し。淡褐色。	
733	第7図	深鉢・胴部	" 前期	表面滑潤文。鐵器・長石多し。淡褐色。	II-1-A	
734	小 石	砂岩				
735	"	"				
736	土 器	深鉢・胴部	縄文中期末	No75と同一個体。		

番号	拂 因	種 別	形 態	時代及び時期	特 徵	分 類	
737							
738	土 器	深鉢・胴部	縄文中期末	K801と同一個体。			
739	第19回	陶 器	碗・胴底部	11~12C	直径7.0cm、ナデ壓印、器底ちぢみ、長石粒含む。灰白色を呈す。		
740	第11回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	K801と同一個体。	II-3-A	
741							
742	土 器	深鉢・口縁部	縄文中期末	口部が肥厚させ、瓶の手跡同雛文を施す。長石粒多し。淡褐色。			
743	" "	" 脱部	" 前期	剥離著しい。基盤厚は1cm、長石粒多し。淡褐色。	III-2		
744							
745	石 器	石鏃・黒曜石					
746	第14回	" 横器・黒曜石					
747	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	表裏とも擦痕。器底若干・長石・雲母多し。暗褐色。	II-1-E		
748	" "	" 脱部	"	無文。器壁厚は4mm、器底擦痕を施す。	II-1-D		
749	石 器	凹石・片麻岩					
750	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	K801と同一個体。手跡同雛文を施す。	III-2-A		
751	" "	" 脱部	" 中期末	K802と同一個体。			
752	礫	削片・綠泥片岩			使用歴なし。		
753	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	擦痕あり。器壁厚は5mm、器底擦痕を施す。長石粒多し。淡褐色。	II-1-C		
754	石 器	凹石・片麻岩					
755	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚4mm、長石粒多し。淡褐色。	II-3-B		
756	第11回	" " 脱部	"	K802と同一個体。	II-3-B		
757	小 石	砂岩					
758							
759	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	手跡同雛文を施す。器壁厚は7mm、長石粒多し。淡褐色。	III-2-A		
760	" "	" "	"	手跡同雛文を施す。器壁厚は8mm、長石粒多し。淡褐色。	#		
761	第9回	" "	"	無文。器壁厚は4mm、器底擦痕を施す。	II-1-C		
762	" "	"	"	K801と同一個体。	#		
763	" "	"	"	無文。器壁厚は4mm、長石・長英石多し。淡褐色。	II-1-D		
764	" "	"	"	手跡同雛文を施す。器壁厚は9mm、砂粒多し。淡茶褐色。	III-2-A		
765	" "	"	"	K802と同一個体。	II-3-B		
766	土師器	甕・胴部	11~12C	ナデ壓印。砂粒多く含む。淡褐色。			
767	甕	削片・破砂岩		使用歴なし。			
768	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm、長石・石英多し。淡褐色。	II-1-D		
769	" "	" "	"	無文。器壁厚は4mm、長石粒多し。淡茶褐色。	#		
770	" "	"	"	無文。器壁厚は4mm、石英多し。淡褐色。	#		
771	" "	"	"	無文。器壁厚は5mm、砂粒と雲母多し。暗褐色。	#		
772	石 器	凹石・片麻岩					
773	土師器	甕・胴部	11~12C	ナデ壓印。砂粒多く含む。淡褐色。			
774	第19回	土師器	杯・底座	"	直径5.0cm、右団子の赤切り底。ナデ壓印。石英・長石・白雲母含む。淡褐色。		
775	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	K801と同一個体。	II-3-B		
776	" "	" 脱部	"	無文。器壁厚は4mm、長石粒多し。淡褐色。	II-1-D		
777	" "	" "	"	無文。器壁厚は4mm、長石粒多し。淡褐色。	#		
778	第13回	" "	" 中期末	北端丸で区画し、始面同雛文と斜面同雛文を施す。茶褐色。長石多し。			
779	"	深鉢・胴部	" 前期	無文。器壁厚は4mm、長石粒多し。淡褐色。	II-1-D		
780	土師器	杯・胴部	11~12C	ナデ壓印。長石・雲母多し。淡褐色。			
781	"	甕・胴部	"	K802と同一個体。			
782	第7回	土 器	深鉢・口縁部	縄文早期末	器壁厚は4mm、基底口縁、長石・石英多し。淡褐色。	I-2-B	
783	"	" 脱部	" 前期	高麗文と利根文。器壁厚は8mm、機械・石英・長石多し。淡褐色。	II-1-A		
784	"	" "	"	界線斜端。長石・長英石多し。淡褐色。	II-1-A		
785	土師器	杯・口縁部	11~12C	内里、ナデ壓印。内面、ヘナミサキ。長石粒を多く含む。灰褐色を呈す。			
786	石 器	凹石・花崗岩		器壁厚は1mm。			
787	土 器	深鉢・胴部	縄文早期末	外周擦痕、内面汚い高麗文。器壁厚は5mm、長石多し。淡褐色。	I-1-B		
788	土師器	杯・胴底部	11~12C	内里、ナデ壓印。窓い長石粒含む。淡褐色。			
789	"	甕・底部	"	直径7.0cm、ナデ压印。石英・長石・白雲母を含む。淡褐色。			
790	"	甕・胴部	"	外腹へナラギ、内腹へナデとナデ压印。石英・雲母多く含む。淡褐色。			
791	"	甕・胴部	"	ナデ压印。砂粒多し。淡褐色。			
792	"	甕 "	"	外腹へナラギ、内腹はナデ压印。石英・雲母多し。淡褐色。			
793	"	甕・胴部	"	外腹へナラギ、内腹はナデ压印。石英・雲母多し。淡褐色。			

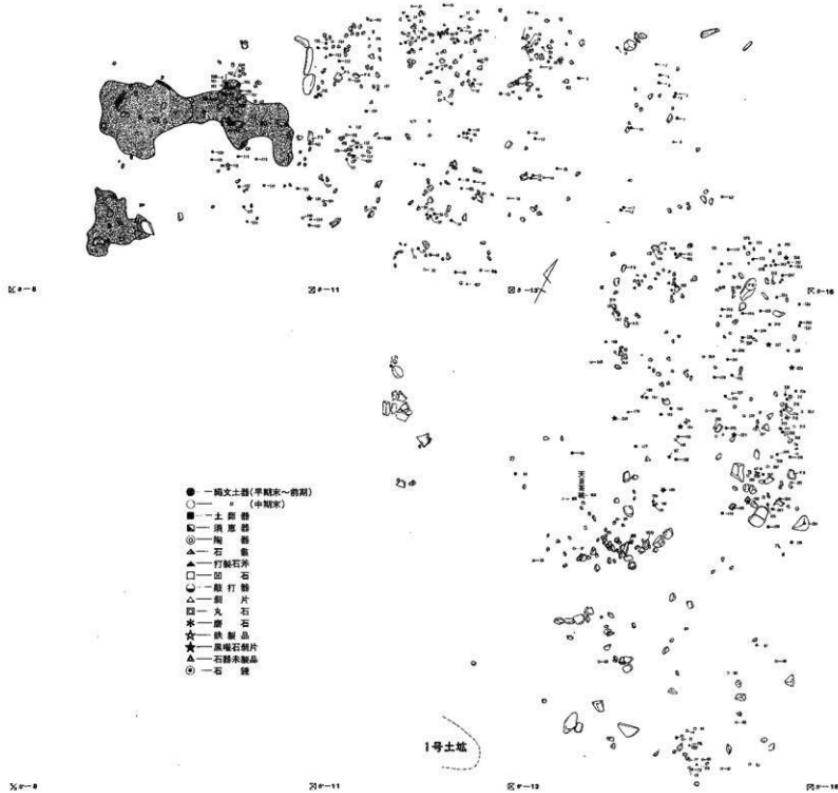
番号	拂因	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
794	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。石英粒多し。淡褐色。		II-1-D
795	土器器	杯・胴底部	11~12C	内周、ナマ整形。長石・石英多し。淡褐色。		
796	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。砂粒多し。淡褐色。		II-1-D
797	#	#	#	#	無文。器壁厚は4mm。砂粒多し。淡褐色。	#
798	#	#	#	#	無痕あり。器壁厚は5mm。砂粒多し。淡褐色。	II-1-C
799	#	#	#	# 中期末	No.778と同一個体。	
800	#	#	#	# 前期	無文。器壁厚は5mm。若い石英含む。淡褐色。	II-1-D
801 第9回	#	#	#	# #	無文。器壁厚は7mm。若い石英含む。淡褐色。	#
802	#	#	#	# #	無文。器壁厚は5mm。表面微凸。細かい石英と若い石英。表面オコゲ付着。茶褐色。	II-1-C
803	石 器	剥片・矮砂岩			使用痕なし。	
804	土器器	甕・胴部	11~12C	No.817と同一個体。		
805	#	甕・胴部		#	多面。瓶口は円筒形。内面ナマ整形。長石・石英多く含む。淡褐色。	
806 第7回	土 器	深鉢・口縁部	縄文早期末	器壁厚は5mm。瓶口状。石英・墨色。外側は灰白色あり。淡褐色。	I-2-B	
807						
808	土 器	深鉢・胴部	縄文中期	沈幕の墨色を施す。長石・石英粒多し。淡褐色。		
809	土器器	甕・胴部	11~12C	No.805と同一個体。		
810	#	#	#	#		
811 第14回	石 器	石核・黑曜石			名前。	
812	土器器	甕・胴部	11~12C	No.805と同一個体。		
813	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。石英・長石粒多し。淡褐色。		II-1-D
814	土器器	甕・胴部	11~12C	No.805と同一個体。		
815	#	#	#	#		
816	#	#	#	#		
817	#	甕・胴部		#	内周、ナマ整形。長石・石英多く含む。内面オコゲ付着。淡褐色。	
818	#	#	#	#	No.817と同一個体。	
819	石 器	すり石・花崗岩			土器の船止へまぜられた磨耗としてのすり石。	
820	土器器	甕・胴部	11~12C	No.805と同一個体。		
821	#	#	#	#		
822	#	#	#	#		
823	#	#	#	#		
824	#	杯・胴部		#	内周、ナマ整形。砂粒多し。淡褐色。	
825	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。點石細かい。淡褐色。		II-1-D
826	石 器	四石・花崗岩			西端上部に1ヶ所。磁石。	
827	土器器	甕・胴部	11~12C	No.805と同一個体。		
828	小 磨	花崗岩				
829	土器器	甕・胴部	11~12C	No.805と同一個体。		
830 第14回	石 器	石核・黑曜石				
831	土器器	甕・胴部	11~12C	No.832と同一個体。		
832	#	甕・胴部		#	外側縁部の内側裏板にはけ目彫形。胴径35mm。長石・石英・金雲母多く含む。淡褐色。外側オコゲ付着。	
833	#	#	#	#	No.832と同一個体。	
834	#	#	#	#		
835	土 器	深鉢 #	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。石英多し。淡褐色。		II-1-D
836 第13回	#	釣手部破片	# 中期末	# ハ先で、刃点部を施す。椎円状を呈す。長石多し。淡褐色。		
837 第9回	#	深鉢・胴部	# 前期	無文。器壁厚は6mm。若い石英含む。墨褐色。		II-1-D
838	#	# 洞部	# 中期末	No.821と同一個体。		
839	土器器	甕・胴部	11~12C	No.805と同一個体。		
840	#	# 口縁部	#	#		
841	#	# 脱部	#	#		
842	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。茶褐色。		II-1-D
843	陶 器	壺? 脱部	12C以降	淡褐色角。胎土は淡灰色で、ち密。		
844 第19回	#	豆・口縁部	#	内面、灰褐色付着。ナマ整形。胎土はち密で淡白色。		
845	土 器	深鉢・胴部	縄文中期	No.821と同一個体。		
846	#	# #	# 早期末	表面少く朱痕文。器壁厚は5mm。長石多し。表面オコゲ付着。暗褐色。		II-1-D
847	土器器	杯・口縁部	11~12C	内周、ナマ整形。長石粒多し。淡褐色。		
848	#	甕・胴部	#	No.849と同一個体。		

番号	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
849	土器部	甕・底部	11~12C	底径6cm,木窓圧痕あり。長石・石英多く含む。外腹へラ層り。内腹へラナゲ。スス付窓。	
850	土器部	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。長石粒多し。灰褐色。	II-1-D
851	土器部	甕・口縁部	11~12C	No.832と同一個体。	
852	—	—	—	—	—
853	—	—	—	—	—
854	土器部	甕・胴部	11~12C	No.832と同一個体。	
855	〃	〃	〃	〃	
856	〃	甕・胴部	〃	外腹・瓶底のヘラナゲ、内腹・横段のナゲ。石英粒多し。灰褐色。	
857 第15回	石器	凹石・硬砂岩	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。長石粒多し。裏面オコゲ付窓。淡褐色。	II-1-A
858	土器部	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。長石粒多し。裏面オコゲ付窓。淡褐色。	II-1-A
859 第15回	石器	打製石斧	—	裏面磨耗。鋸歯形。	
860 第19回	土器部	杯・口縁部	11~12C	土偶形。口径14.4cm。ナテ整形。口唇部やや膨厚で、外反する。白雲母多し。淡赤褐色。	
861	〃	甕・胴部	〃	No.832と同一個体。	
862	〃	甕・胴部	〃	ヘラ削り。白雲母・石英粒多し。灰褐色。	
863	土器部	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。長い長石・石英含む。淡褐色。	II-1-D
864 第9回	〃	〃	〃	無文。表面擦痕。器壁厚は4mm。長い長石・石英含む。淡褐色。	〃
865	〃	〃	〃	無文。器壁厚は5mm。石英粒多し。淡褐色。	〃
866	〃	〃	〃	無文。器壁厚は4mm。細かい小石英・長石含む。淡褐色。	II-1-C
867	〃	灼手部破片	縄文中期末	無文。表面付着。断面には、沈没と船底織文が逃されると考えられる。長石多し。淡褐色。	
868	〃	深鉢・胴部	〃	No.70と同一個体。	
869	〃	〃	前期	表裏擦痕。長石微弱。器壁厚は7mm。石英多し。淡褐色。裏面オコゲ付窓。	II-1-C
870 第11回	〃	〃	側体	口径10.4cm。底径8.4cm。木窓圧痕。表面とも、垂直状の整形をしている。長石多し。淡褐色。	III-3-A
871	礫	輝緑岩	—	土器粘土への擦材料。	
872	土器部	深鉢・胴部	縄文前期	擦痕あり。器壁厚は4mm。石英粒多し。淡褐色。	II-1-C
873	石器	剥片・黑曜石	—	—	
874	土器部	杯・口縁部	11~12C	内黒。ナゲ整形。素面・石英含む。淡褐色。	
875	石器	石鏡・石英	—	裏面不充分。	
876	小石	〃	〃	土器粘土への擦材料。	
877	石器	〃	黑曜石	使用済み。	
878	〃	凹石・片麻岩	—	凹部は、下面にあり。淡く広い。	
879	〃	石核・チャート	—	—	
880 第11回	土器部	深鉢・胴部	縄文前期	斜面丈。長石多し。淡褐色。	II-2-A
881 第9回	〃	〃	口縁部	半量竹管背負式具で2条の平行刺突支を施す。暗赤褐色。長石・石英多し。裏面擦痕。器壁厚は6mm。	II-2-B
882	〃	〃	胴部	刺突支と斜面丈。No.831と同一個体。	〃
883	石器部	剥片・頁岩	—	—	
884	礫	硬砂岩	—	使用済み。	
885	土器部	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。長石多し。暗褐色。	II-1-D
886	〃	〃	胴部	残書文と斜面丈。No.833と同一個体。	II-1-A
887 第11回	〃	〃	頭底部	No.75と同一個体。直径8cm。	II-3-B
888 第16回	石器	凹石・片麻岩	—	凹部は、上面2ヶ所、下面2ヶ所。	
889	土器部	深鉢・底部	縄文前期	底径8cm。No.831と同一個体。	II-2-B
890	礫	剥片・硬砂岩	—	使用済み。	
891 第11回	土器部	深鉢・胴底部	縄文前期	No.837と同一個体。	II-3-B
892	—	—	—	—	
893	石器	すり石・片麻岩	—	裏面すりてある。	
894	〃	丸石・硬砂岩	—	—	
895 第19回	頭底器	甕・胴部	10~11C	No.837と同一個体。	
896	土器部	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。石英・長石含む。淡褐色。	II-1-D
897	石器	丸石・硬砂岩	—	—	
898	石器	すり石・片麻岩	—	—	
899 第7回	土器部	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。細かい長石・石英含む。淡褐色。	II-1-B
900 第15回	石器	敲打器・硬砂岩	—	先端を敲打し、裏面をすりてある。	
901	土器部	深鉢・胴部	縄文中期末	沈没を施す。長石・石英多し。淡褐色。	
902	陶器部	杯・胴部	—	ナゲ整形。透明感を施す。胎土は灰白色。	

番号	拂 国	種 別	形 態	時代及び時期	特 徵	分 類
903		石 器	四石・花崗岩		西部は下面1ヶ所、側面すべてある。	
904						
905		土 器	砂岩		板状。	
906		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	手島外縄文を施す。器壁厚は6mm。石英・長石多し。淡褐色。	
907		"	" "	"	No.906と同一個体。	
908		石 器	四石・花崗岩		西部は上面1ヶ所、下面1ヶ所、側面すべてある。	
909						
910		石 器	丸石・硬砂岩		スリットしている。	
911		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	No.953と同一個体。	II-2-A
912		"	" 胴部	中期末	No.921と同一個体。	
913		小 瓢	破片・片麻岩			
914		石 锤	打製石斧		輪狀刃。	
915	第11回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	No.903と同一個体。	II-3-A
916		"	" 胴部	中期末	No.921と同一個体。	
917		"	"	" "		
918		禮	片麻岩			
919						
920		鐵製品	鍛製内耳鍔	12C以降	口縁部分と内耳部分が残存。	
921	第13回	土 器	深鉢形土器	縄文中期末	ほぼ一體分。手島外縄文と輪狀刃を施す。長石・石英を多く含む。淡褐色。	
922		"	"	" "	No.921と同一個体。	
923		小 瓢	破片・片麻岩			
924						
925		土 器	深鉢・口縁部	縄文中期末	底状口輪狀刃。No.921と同一個体。	
926		"	" 胴部	前期	無文。器壁厚は4mm。長石・石英粒多し。淡褐色。	II-1-D
927	第7回	"	" "	早期末	表面とともに無釉。器壁厚は8mm。鐵質・長石・長石多し。淡褐色。	I-1-C
928		石 器	石錐・黒曜石			
929	第18回	陶 器	碗	12C以降	十個体。口径15.6cm。底径30.4cm。付付高台。ナテ整形。灰白色。胎土ち密。右側り条切引底。	
930		禮	剥片・硬砂岩		使用痕なし。スリットしている。	
931		土師器	盤・胴部	11~12C	No.934と同一個体。	
932	第18回	陶 器	碗	12C以降	土質灰。口径17.4cm。底径9.4cm。付付高台。ナテ整形。灰白色。胎土ち密であるが、長石粒含む。右側り条切引底。	
933		"	"	"		
934		土師器	甕・胴部	11~12C	外腹・斜傾のへき裂り。内腹・斜傾のはけ目整形。長石・石英多く含む。茶褐色。外腹スヌ付帯。	
935		石 器	丸石・硬砂岩			
936		陶 器	盤・口縁部	12C以降	口唇部肥厚している。内面・灰褐色。ナテ整形。胎土ち密で、灰白色。	
937						
938	第18回	土師器	甕・胴部	11~12C	No.934と同一個体。	
939		"	" 底部	"	"	
940		"	" 胴部	"	"	
941		"	" "	"	"	
942		"	" "	"	"	
943		"	" "	"	"	
944	第18回	陶 器	碗・口縁部	12C以降	口径15.8cm。ナテ整形。胎土ち密で、灰白色を呈す。胎は透明で、内面白色化している。	
945	"	"	碗・底部	"	底径6.2cm。ナテ整形。胎土ち密で、白色を呈す。朱墨引底。	
946		土師器	甕・胴部	11~12C	No.934と同一個体。	
947						
948		小 瓢	丸石破片・硬砂岩			
949	第9回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。No.953と同一個体。	II-2-A
950	"	"	" "	" "	"	"
951		"	" "	" "	無文。器壁厚は7mm。長石粒多し。淡褐色。	II-1-D
952		土師器	甕・胴部	11~12C	内外腹・ナテ整形。石英多く含む。内腹・全体にオコゲ付帯。淡褐色。	
953	第9回	土 器	深鉢・口縁部	縄文前期	垂直状縄文には2条並行の斜縄文と斜縫文を施す。長石多し。器壁厚は8mm。淡褐色。	II-2-A
954		"	" 胴部	" "	無文。器壁厚は5mm。長石粒多し。淡褐色。	II-1-D
955		"	" "	" "	無文。器壁厚は6mm。長石粒多し。淡褐色。	"
956		"	" "	" "	気泡。器壁厚は4mm。長石粒多し。淡褐色。	"

番号	博 国	種 別	形 態	時代及び時期	特 徴	分 類
957	第11回	土 器	深鉢・底部	縄文前期	No.654と同一個体。	II-3-B
958	"	深鉢・胴部	" "	"	新文。器壁厚は4mm。長石粒多し。淡褐色。	II-1-D
959	第9回	" "	" "	"	新文。器壁厚は4mm。長石・石英・金雲母多し。器壁厚は4mm。表面微細。淡茶褐色。	III-1-B
960	第11回	" "	" "	"	新文を複数。長石多し。器壁厚さす。淡褐色。	"
961	"	" 脇部	" "	"	新文新鐵文を複数。器壁厚は6mm。長石粒多し。淡褐色。No.506と同一。	III-2-A
962	石 器	すり石・片麻岩	" "	"	台石か。	
963	"	剥片・黒曜石	" "	"	使用痕なし。	
964	第11回	上 器	深鉢・底盤	縄文前期	No.652と同一個体。	III-1-B
965	第11回	"	深鉢・底部	" "	器壁厚10mm。No.664と同一個体。	II-3-B
966	"	剥片・硬砂岩	" "	"	使用痕なし。	
967	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	"	界面斜めに走る。	III-2-A
968	第15回	石 器	石鉢・硬砂岩	"	片方の袂部欠く。	
969	"	剥片・黒曜石	" "	"	使用痕なし。	
970	第11回	土 器	深鉢・口縁部	縄文前期	No.696と同一個体。	II-3-D
971	第7回	" "	脇部	" "	新文新鐵文。鐵文・長石少し。淡黃褐色。	II-1-A
972	石 器	すり石・花崗岩	" "	"		
973	第11回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	No.697と同一個体。	II-1-A
974	"	" 脇部	" "	"	No.698と同一個体。	II-3-D
975	"	" "	" "	"	No.699と同一個体。	II-1-A
976	"	" 脇部	" "	"	新文。器壁厚は4mm。鐵文若干。長石多し。淡褐色。	II-1-E
977	石 器	剥片・黒曜石	" "	"		
978	"	" "	" "	"		
979	第15回	石 器	敲打器・硬砂岩	"	先端部を敲打し、側面はすってある。	
980	"	丸石・林邑片岩	" "	"		
981	"	すり石・礫岩	" "	"		
982	"	破片・片麻岩	" "	"		
983	石 器	剥片・黒曜石	" "	"	使用痕あり。石漠未製品か。	
984	"	敲打器・硬砂岩	" "	"		
985	第11回	土 器	深鉢・口縁部	縄文前期	No.695と同一個体。	II-3-D
986	第9回	" "	口縁部	" "	新文。No.681と同一個体。	II-2-B
987	"	"	口縁部	" "	新文。	"
988	"	" 脇部	" "	"	新文。	"
989	小 石	砂岩	" "	"		
990	第11回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	新文。No.681と同一個体。	II-2-B
991	"	" 脇部	" "	"	新文。器壁厚は5mm。鐵文若干。長石多し。淡褐色。	II-1-E
992	第9回	" "	口縁部	" "	新文。No.685と同一個体。	II-2-B
993	"	" 脇部	" "	"	新文。	"
994	"	" 脇部	" 平窓末	"	表面とも複数文。器壁厚は6mm。石英・長石多し。淡黃褐色。	I-1-C
995	石 器	凹石・花崗岩	" "	"	鋸石。四隅は2面2所。上面1ヶ所。彫削すてある。	
996	第11回	土 器	深鉢・口縁部	縄文前期	新文。器壁厚は5mm。長石多く含む。淡褐色。	II-3-D
997	"	" 脇部	" "	"	新文。器壁厚は5mm。長石少し。淡褐色。	II-1-D
998	第9回	" "	" "	"	新文。No.681と同一個体。	II-2-B
999	"	" 脇部	" "	"	新文。器壁厚は6mm。底を磨いて重い。淡灰褐色。	II-1-D
1000	第14回	石 器	スクレーパー・チーター	"		
1001	第11回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	No.692と同一個体。	III-1-A
1002	"	" "	" "	"	新文。長石多し。淡褐色。	III-2-A
1003	"	" "	" "	"		
1004	石 器	剥片・黒曜石	" "	"	使用痕あり。	
1005	土 器	深鉢・口縁部	縄文前期	"	新文。No.693と同一個体。	II-2-A
1006	"	" 脇部	" "	"	擦痕あり。器壁厚は5mm。長石粒多し。淡褐色。	II-1-C
1007	"	" "	" "	"	No.693と同一個体。	II-2-A
1008	"	" "	" "	"	新文。長石多し。淡褐色。	II-2-A
1009	石 器	剥片・黒曜石	" "	"	使用痕あり。	
1010	第9回	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	新文。No.693と同一個体。	II-2-A
1011	第11回	" "	" "	"	No.695と同一個体。	II-1-B
1012	第9回	" "	" "	"	No.695と同一個体。	II-2-A
1013	"	" "	" "	" "	"	"

番号	博物館	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
1014	第15回	石 器	すり石・硬砂岩		表面磨耗している。	
1015	第11回	土 器	深鉢・肩部	縄文前期	斜面文、重い石突多し、淡茶褐色、表面スベリ感。	II-2-A
1016	第 9 回	#	#	縄文文、#1053と同一個体。		II-2-A
1017	第11回	#	#	縄文文の太い革筋斜面文、長石・石突多し、表面スベリ感。		II-3-C
1018	—	—	—	—	—	—
1019	土 器	深鉢・肩部	縄文前期	表面あり、器壁厚は6mm、石突多し、淡茶褐色。		II-1-C
1020	#	#	#	#	無文、器壁厚は5mm、横か・長石多し、淡茶褐色。	#
1021	第 9 回	#	#	口縁部	山形口縁をなす。斜文文、#1053と同一個体。	II-2-A
1022	第11回	#	#	肩部	#1017と同一個体。	II-3-C
1023	#	#	#	#	斜文文、#1053と同一個体。	II-2-B
1024	石 器	剥片・黒曜石			使用痕なし。	
1025	—	—	—	—	—	—
1026	第 7 回	土 器	深鉢・肩部	縄文前期	表面あり、器壁厚は5mm、石突・長石多し、淡黄褐色。	II-1-C
1027	#	#	#	早期		
1028	第 7 回	#	#	肩上部	表面厚は5mm、器底側から長石多し、淡茶褐色。	I-2-A
1029	第11回	#	#	肩部	斜面文を施すとし、テラ先でひし形の沈面文を施す。器壁厚は4mm、長石多し、淡褐色。	II-1-C
1030	#	#	#	#	斜面文、長石多し、淡褐色。	II-3-A
1031	石 器	剥片・チャート			使用痕なし。	
1032	土 器	深鉢・肩部	縄文前期	無文、器壁厚は5mm、圓底・長石・心窓含む、淡褐色。		II-1-E
1033	石 器	剥片・黒曜石			使用痕なし。	
1034	第14回	#	石 痕・黒曜石		右側。	
1035	土 器	深鉢・肩部	縄文前期	斜面文、圓底・長石多し、淡灰褐色。		II-1-A
1036	第 9 回	#	#	#	斜面文、#1053と同一個体。	II-2-A
1037	#	#	#	#		#
1038	第 9 回	#	#	#		#
1039	#	#	#	#	斜面文、長石多し、淡褐色。	II-2-A
1040	礫	輝緑岩				
1041	土 器	深鉢・肩部	縄文前期	無文、器壁厚は5mm、長石柱多し、淡褐色。		II-1-D
1042	#	#	#	#	無文、器壁厚は5mm、白雲母多し、淡茶褐色。	#
1043	#	#	#	#	斜面文、#1053と同一個体。	II-2-B
1044	#	#	#	#	斜面文。	#
1045	第14回	石 器	接着・貝岩			
1046	土 器	深鉢・肩部	縄文前期	無文、器壁厚は5mm、石突多し、淡灰褐色。		II-1-D
1047	石 器	剥片・貝岩			使用痕なし。	
1048	#	すり石・花崗岩			土器粘土の塗材料。	



第6図 カ-8-16G・カ-8-8G内、暗褐色土層遺物分布図 ($S = \frac{1}{60}$)

第IV群 繩文時代中期末の土器を一括する。総体的に深鉢形を呈し、施文は隆帯文と斜縦文、沈線文によるU字状あるいは楕円状の区画を行い結節縦文の組合せ、ヘラ状施文具による連続刺突文で楕円状を施すもの（この口縁部には、釣手部が付くと思われる）が見られる。焼成は良好で、長石・石英を多く含む。

第V群 繩文時代後期前半の土器であり、2点出土している。口縁部に沈線を施すものと斜縦文の上に沈線で楕円文を施すものである。焼成は良好で、長石を多く含む。

第VI群 平安時代半ばから末にかけての土師器、須恵器を一括する。壺形、杯が多い。

第VII群 灰釉、施釉陶器を一括する。胎土・釉・器形より平安時代末から鎌倉・南北朝にかけてのもので、主に鎌倉時代以降のものである。

以上のように遺物のうち土器をI～VII群まで分類した。

(1) 土塙群（第8・12図 図版2・3）

①第1号土塙

ピット群のすぐ南西に位置し、長軸1m90cm、短軸1m25cm、深さ60cmを測り、平面形が隅丸二等辺三角形状を呈し、断面形はたらい状を呈す。黒色土が堆積し、疊含む。

出土遺物は、第II群～IV群が出土し、主にII群1類が多い。石器は、石錐1点、凹石1点、石鏃1点、打製石斧1点、磨石2点と、黒曜石・硬砂岩の剝片が出土している。

②第2号土塙

第1号土塙の北西7mに位置し、長軸2m60cm、短軸1m90cm、深さ72cmを測り、平面形が楕円形、断面形が舟底形を呈す。南壁に大きな自然石あり。黒褐色・暗褐色土が堆積。

出土遺物は、第II群～IV群が出土し、主にII群2類が多い。石器は、スクレイバー1点、敲打器1点、磨石3点と、黒曜石・チャート剝片が出土している。

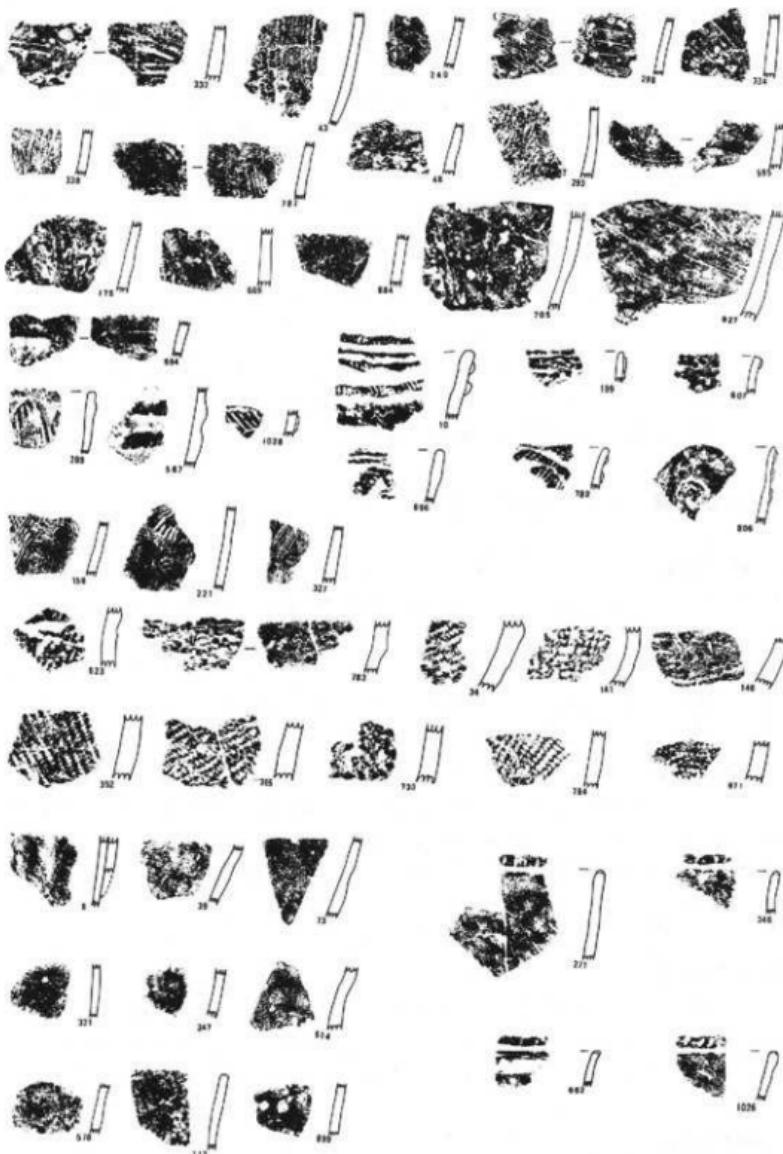
③第3号土塙

第2号土塙のすぐ北西に位置し、長軸1m85cm、短軸1m30cm、深さ72cmを測り、平面形が楕円形、断面形は舟底形を呈す。南西壁より埋土に大きな自然石がある。黒褐色土が堆積する。

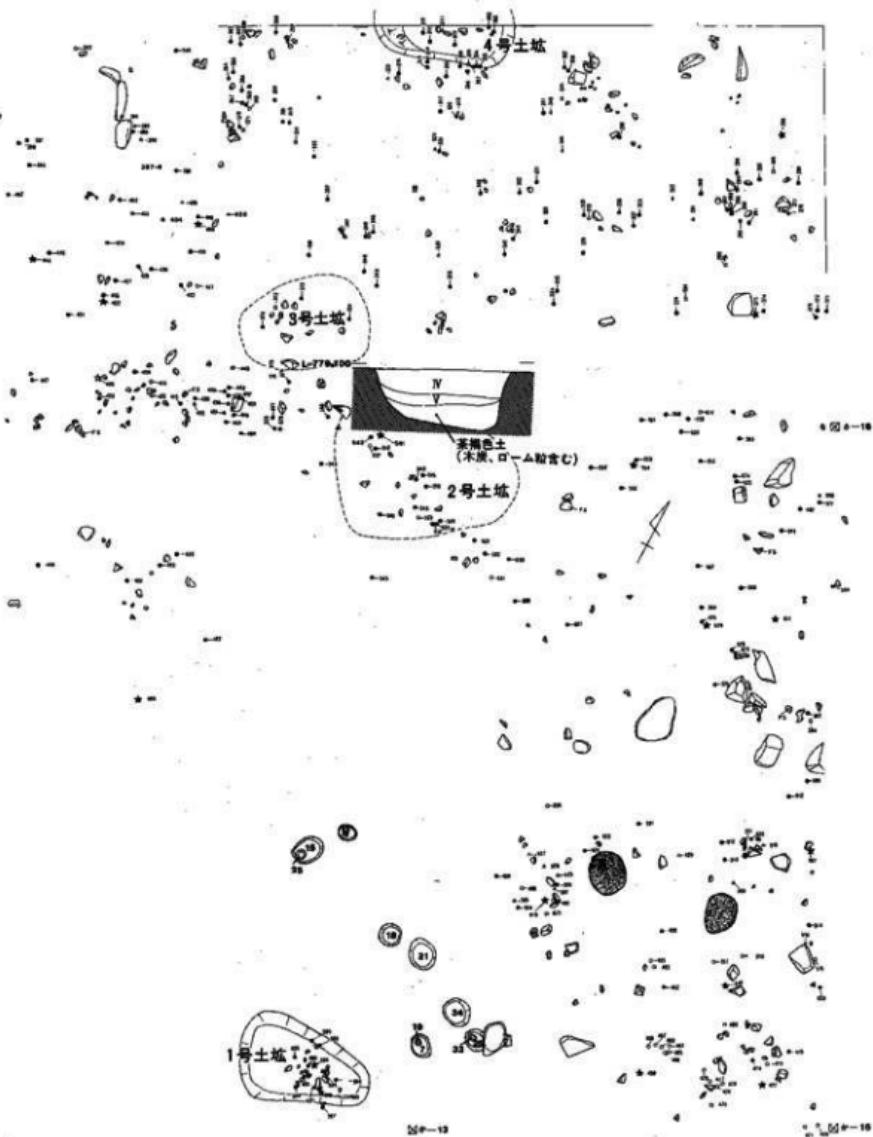
出土遺物は、第II群3類の土器が出土している。石器は、硬砂岩剝片のみである。

④第4号土塙

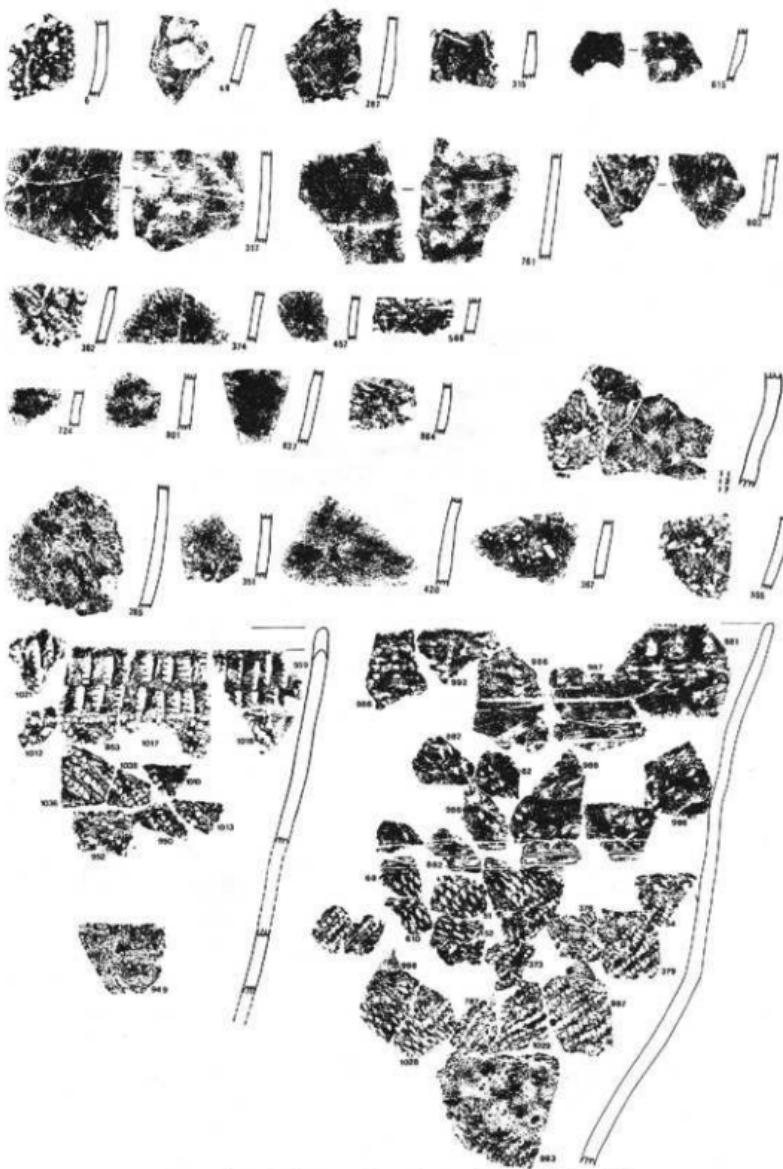
第3号土塙の北3.5mに位置し、長軸2m位、短軸1m50cm位を測り、深さは80位である。



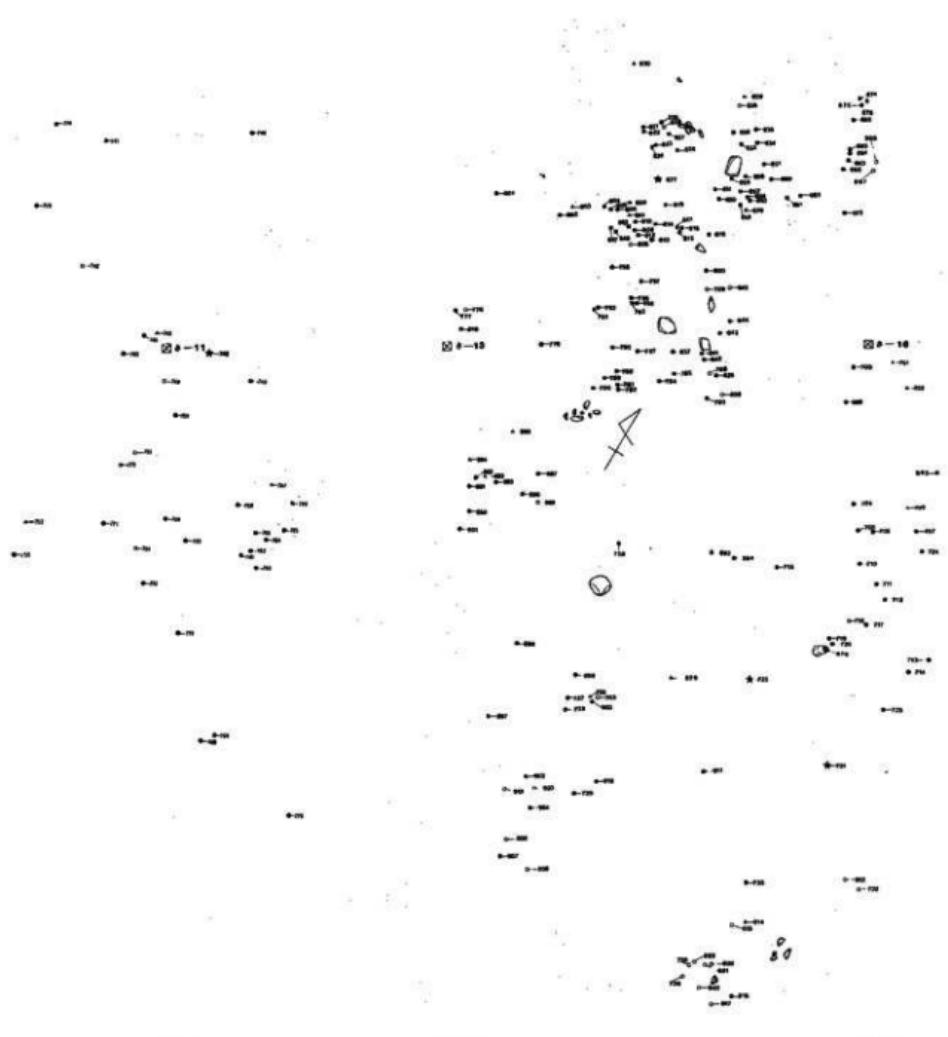
第7図 第I群1・2類、第II群1類A～C植土器 ($S = \frac{1}{3}$)



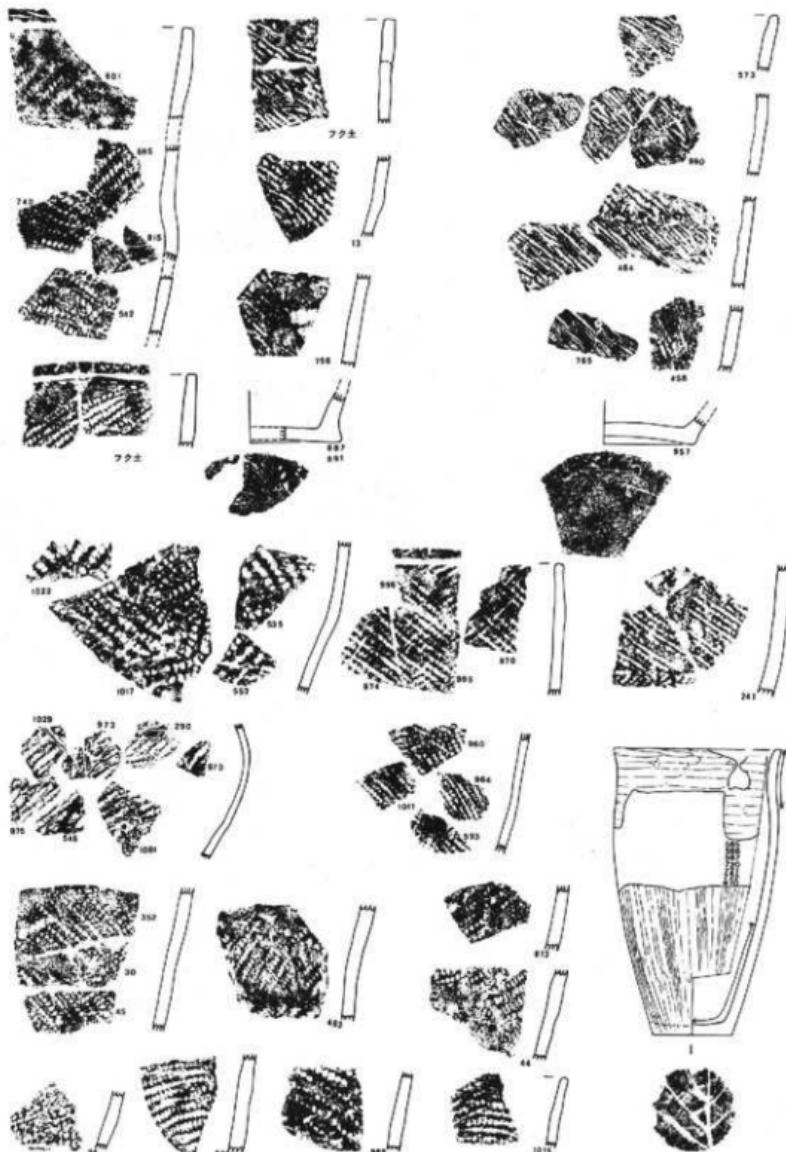
第8図 か-11~16G・か-11~す-11G内、黒褐色土層遺物分布図 ($S = \frac{1}{80}$)



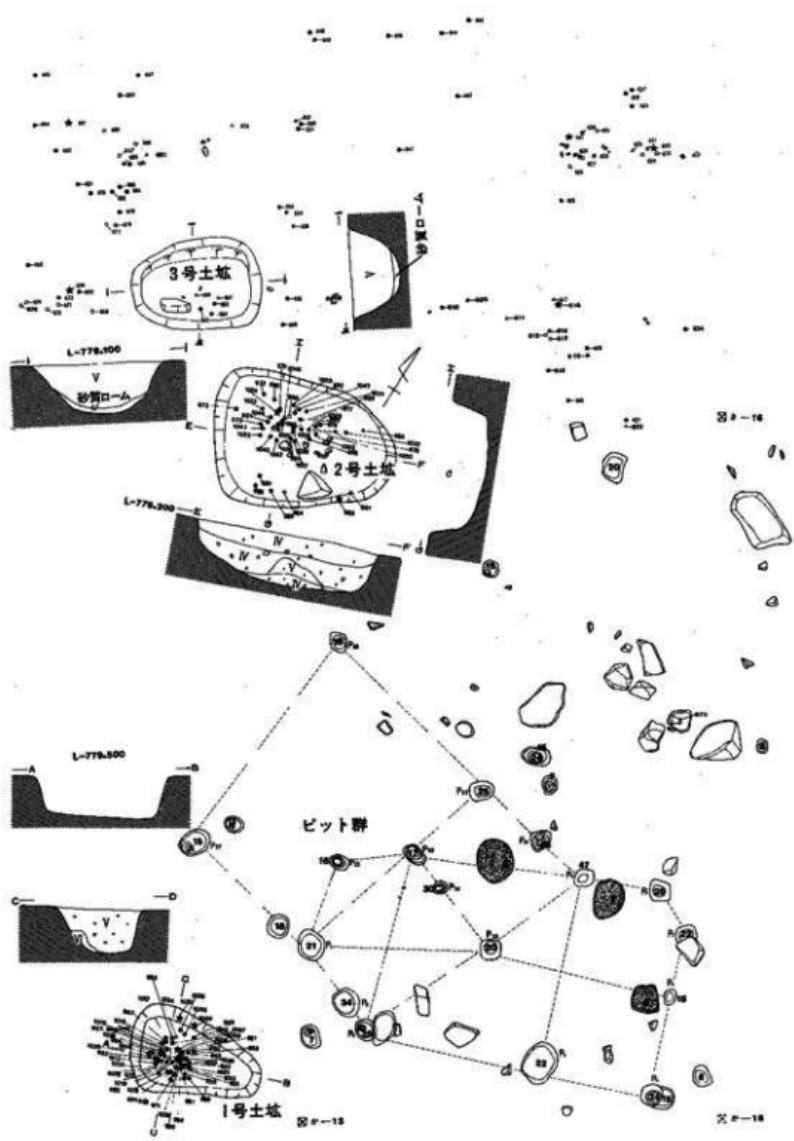
第9図 第II群1類C～E種、2類A・B種土器 ($S = \frac{1}{3}$)



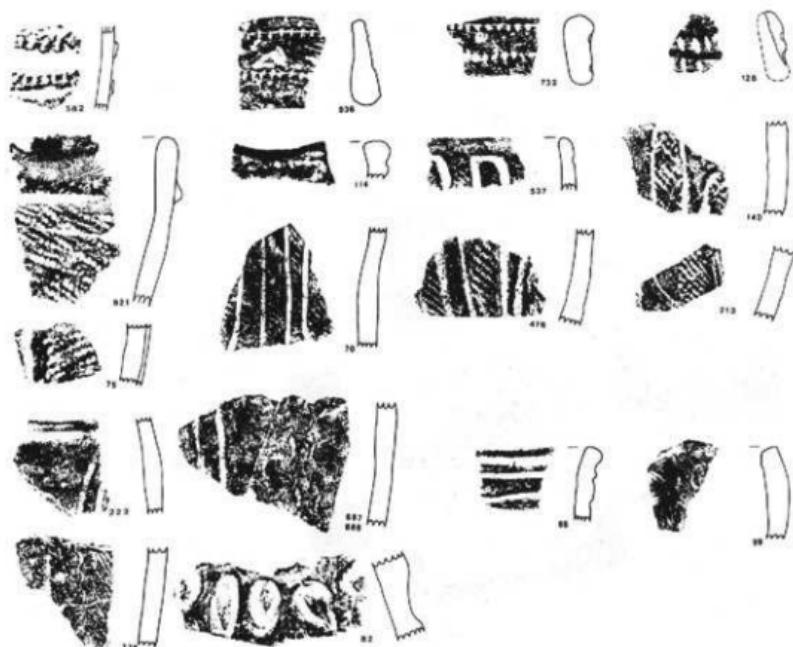
第10図 か-10~16G・か-10~す-10G内、黒褐色土屑遺物分布図 ($S = \frac{1}{80}$)



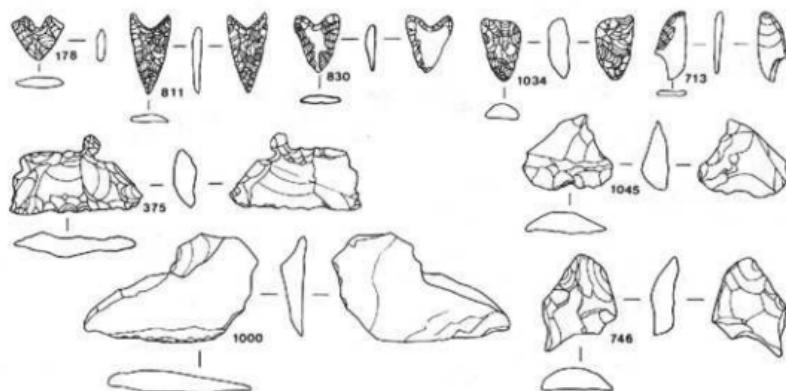
第11図 第II群3類A～E種、第III群1・2類土器 ($S = \frac{1}{3}$)



第12図 土塚1～3号周辺遺物分布図及びピット群・焼土集中区実測図 ($S = \frac{1}{50}$)



第13図 第IV・V群土器 ($S = \frac{1}{3}$)



第14図 石器実測図 ($S = \frac{1}{2}$)

出土石器計測表 (単位g·cm)

No.	種別・形状	残存	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考	No.	種別・形状	残存	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
18	すり石	完形	練泥片岩	13.4	4.5	1.8	240		375	石匙	完形	チャート	2.1	4.3	0.7	1.0	
22	敲打器	"	硬砂岩	11.6	6.0	2.4	280		384	凹石	"	片麻岩	10.0	7.6	2.7	330	
33	すり石	"	花崗岩	6.8	5.7	4.3	275		390	剥片石器	"	硬砂岩	10.3	6.5	1.5	125	
40	凹石	"	"	11.5	5.6	4.2	345		392	凹石	"	片麻岩	5.8	5.6	1.6	100	
42	"	"	片麻岩	10.8	6.1	4.0	430		404	すり石	"	"	10.7	7.1	4.8	505	
49	すり石	"	花崗岩	12.5	6.5	4.5	610		422	凹石	完形	"	10.7	6.8	2.3	243	
59	"	"	"	4.8	4.8	2.6	87		443	"	"	"	9.6	6.5	5.1	430	
61	凹石	%	片麻岩	8.2	4.7	5.2	320		455	すり石	%	"	15.5	7.6	6.1	710	
62	"	%	"	9.7	7.0	4.4	435		470	敲打器	%	硬砂岩	11.7	4.4	4.4	390	
64	すり石	%	"	7.2	5.8	3.6	290		480	凹石	完形	片麻岩	11.5	5.2	4.5	435	大
76	擦器	"	硬砂岩	7.8	5.5	2.7	180		525	"	"	"	11.6	6.9	3.8	415	
96	凹石	完形	花崗岩	11.1	4.6	3.8	275		528	"	"	"	8.7	6.3	4.4	380	
100	石皿	%	安山岩	16.7	9.1	3.6	720		529	すり石	"	砂岩	13.1	6.3	2.8	325	
127	石匙	完形	硬砂岩	8.5	5.3	1.3	60		539	凹石	"	花崗岩	10.8	8.0	4.3	540	
136	打製石斧・分離形	%	ルーブルアラス	12.1	5.9	1.6	220	万部 大き	566	打製石斧・短圓形	%	練泥片岩	4.9	4.6	0.7	3.0	頭 部分
158	すり石	%	花崗岩	8.2	12.6	7.8	1,625		574	敲打器・凹形	完形	硬砂岩	9.3	11.2	4.0	532	
160	凹石	完形	"	10.2	7.0	4.0	430		612	凹石	"	片麻岩	9.7	5.6	5.4	405	
161	"	"	"	9.7	7.5	3.7	400	又々 付番	278	すり石	%	硬砂岩	11.4	10.0	3.6	440	
165	"	"	"	9.2	7.3	2.5	205		291	打製石斧・削片	"	"	8.6	5.8	1.3	80	
169	すり石	"	硬砂岩	11.8	5.1	2.2	208		307	石鑿	%	チャート	2.0	1.7	0.4	2	頭 部分
178	石鏃	チャート	"	1.1	1.7	0.3	3	有脚	323	"	%	黒曜石	1.9	1.6	0.3	1	片脚
244	敲打器	%	硬砂岩	8.6	4.6	4.0	315		353	擦器・円形	硬砂岩	"	7.8	7.2	2.1	168	
261	凹石	完形	片麻岩	10.5	7.3	3.8	345		360	凹石	完形	片麻岩	9.4	7.4	4.0	390	
262	"	"	"	8.2	6.9	1.4	180		371	すり石	%	花崗岩	6.5	3.9	3.3	105	
263	すり石	"	"	8.2	6.0	5.8	540		511	石鑿	%	黒曜石	1.5	1.3	0.3	1	片脚 大き
264	凹石	"	"	10.0	5.9	3.0	313		530	すり石	完形	花崗岩	6.5	6.3	6.3	380	
265	"	"	"	8.4	11.3	5.5	1,330	合石か 匂	571	敲打器	%	硬砂岩	9.3	6.2	3.1	115	
267	"	"	"	12.3	7.1	2.5	325		609	すり石	完形	花崗岩	5.8	5.2	3.9	165	
268	"	"	"	14.5	10.5	5.7	1,640	合石か 匂	615	凹石	"	片麻岩	12.8	7.1	5.8	770	
269	"	"	"	13.0	9.0	5.5	1,065	合石か 匂	625	"	"	"	10.2	6.5	3.5	375	
277	打製石斧・短圓形	%	硬砂岩	6.8	4.4	1.5	70		627	"	"	"	9.4	5.9	2.7	260	
279	凹石	完形	片麻岩	6.9	7.5	3.0	215		630	"	"	"	8.9	6.3	2.7	250	
280	すり石	"	"	10.2	8.3	4.2	645		631	すり石	"	砂岩	10.3	5.7	2.8	270	
288	凹石	"	"	8.6	11.0	4.0	550		632	凹石	%	片麻岩	7.1	6.2	5.0	255	
305	"	"	"	10.8	6.4	3.6	390		640	"	%	"	8.6	5.7	4.0	240	
322	打製石斧・未製品	"	硬砂岩	5.3	11.0	2.2	210		649	すり石	完形	安山岩	7.7	5.1	3.6	215	
336	と石	完形	片麻岩	10.7	7.6	2.3	275		653	敲打器	%	礫岩	5.7	7.3	4.5	120	
340	すり石	"	"	8.7	3.5	3.2	155		658	すり石	完形	花崗岩	10.8	6.7	5.7	770	
361	"	%	花崗岩	7.8	3.5	4.0	175		676	敲打器	"	硬砂岩	10.1	5.4	2.6	220	
364	"	%	"	6.3	7.2	3.3	200		690	"	"	礫岩	11.0	8.9	3.4	555	
369	凹石	%	片麻岩	8.8	7.1	1.6	135		699	"	"	花崗岩	5.9	9.4	3.8	340	
370	石鎌	%	硬砂岩	3.8	4.2	1.8	48		702	剥片石器	硬砂岩	"	7.9	5.8	1.6	110	
372	すり石	完形	片麻岩	8.4	6.4	2.9	252		711	敲打器・凹形	"	"	7.5	5.4	2.6	135	

No.	種別・形状	残存	材質	長さ	幅	厚さ	重量	番号	No.	種別・形状	残存	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
716	凹 石	完形	片麻岩	8.6	7.6	3.2	328		888	凹 石	完形	片麻岩	8.8	6.7	2.9	268	
723	刮 片		黒曜石	3.1	1.4	0.6	4		900	敲打器	#	硬砂岩	11.6	6.1	3.6	380	
746	スクレイパー	%	チャート	2.8	2.5	0.8	9		903	凹 石	#	花崗岩	10.3	6.5	4.0	355	
749	凹 石	%	片麻岩	7.0	5.6	2.7	140		908	"	#	"	7.7	7.3	4.1	380	
754	"	完形	"	9.8	6.0	3.5	350		928	石 鐵	#	黒曜石	1.6	1.3	0.5	3	
772	"	%	"	6.1	6.9	2.8	185		968	石 鐵	%	硬砂岩	6.7	5.6	2.0	100	
786	"	完形	花崗岩	10.3	7.4	3.7	415		972	すり石	%	花崗岩	11.1	6.6	4.3	525	
811	石 鐵	#	黒曜石	2.3	1.3	0.3	2	有脚	979	敲打器	%	硬砂岩	10.7	4.3	3.1	252	
819	すり石	#	花崗岩	7.4	5.4	3.0	185		983	刮 片		黒曜石	3.5	1.6	1.4	8	
826	凹 石	%	"	10.4	5.9	4.5	295	塊石	984	敲打器	完形	硬砂岩	8.7	5.5	3.6	270	
830	石 鐵	完形	チャート	1.7	1.3	0.4	3		995	凹 石	%	花崗岩	10.6	8.1	3.8	385	鐵石
857	凹 石	"	硬砂岩	10.5	5.6	2.0	263		1000	スクレイパー	%	チャート	3.8	5.2	0.8	1.6	
859	打製石斧	"	"	14.8	6.2	1.8	292		1014	すり石	完形	硬砂岩	13.5	4.9	3.1	390	
875	石 鐵	"	石英	1.7	1.6	0.5	1		1034	石 鐵	#	チャート	2.2	1.3	0.7	3	有脚
877	搔 器		黒曜石	1.9	3.8	0.4	5		1045	搔 器		"	2.6	3.1	0.9	6	
878	凹 石	完形	片麻岩	12.5	8.0	3.8	435										

半分しか掘り下がることができなかつた為に、計測値は現状値及び推測である。平面形は梢円形を呈すると思われ、断面形は舟底形を呈する。

出土遺物は、第Ⅱ群2類の土器が主に出土している。石器は壁より石鐵1点、磨石1点と硬砂岩の剥片が出土している。

上位より黒褐色土・黑色土・茶褐色土が堆積している。

(2) ピット群 (第12図 図版2)

第1号土塙と第2号土塙の間で、東の地区にピット群が検出された。明確なピットと考えられるものは17ヶ所あり、その外も含まれるかもしれない。

P₁・P₂・P₃～P₅・P₇・P₈の組み合せと、P₁・P₂・P₃～P₅・P₆・P₇・P₈の組み合せが想定され、深さは、15cm～47cmとばらつきがあり一定ではない。前者の組み合せは、長梢円形を呈し、後者は長方形を呈す。ピット群の中に焼土集中箇所が3ヶ所あり、7cm前後焼土が堆積している。

出土遺物は、前者のピット群の中に、第Ⅳ群一縄文中期の遺物が多く、後者の中に、第Ⅱ群の前期の遺物が多い。

P₄内より鉄製内耳付鍋が出土している。

(3) 焼土・木炭集中区 (第6図 図版2)

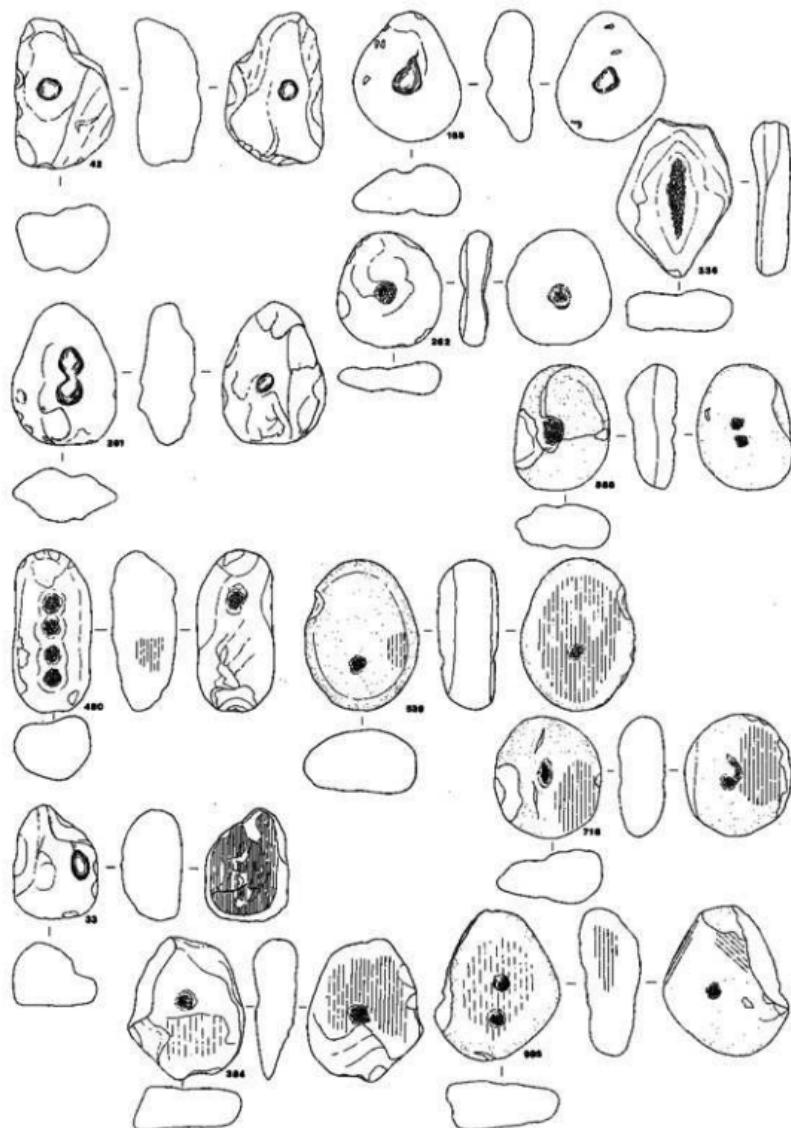
第3号土塙より西方5m位を中心として、ほぼ4m四方に、焼土・木炭が集中して、10cm位堆積していた。柱穴のような遺構は検出されなかった。

出土遺物は、第VI群土器一平安時代末～が多く、甕・杯が主体であった。同じレベルより、石鐵・打製石斧なども出土している。

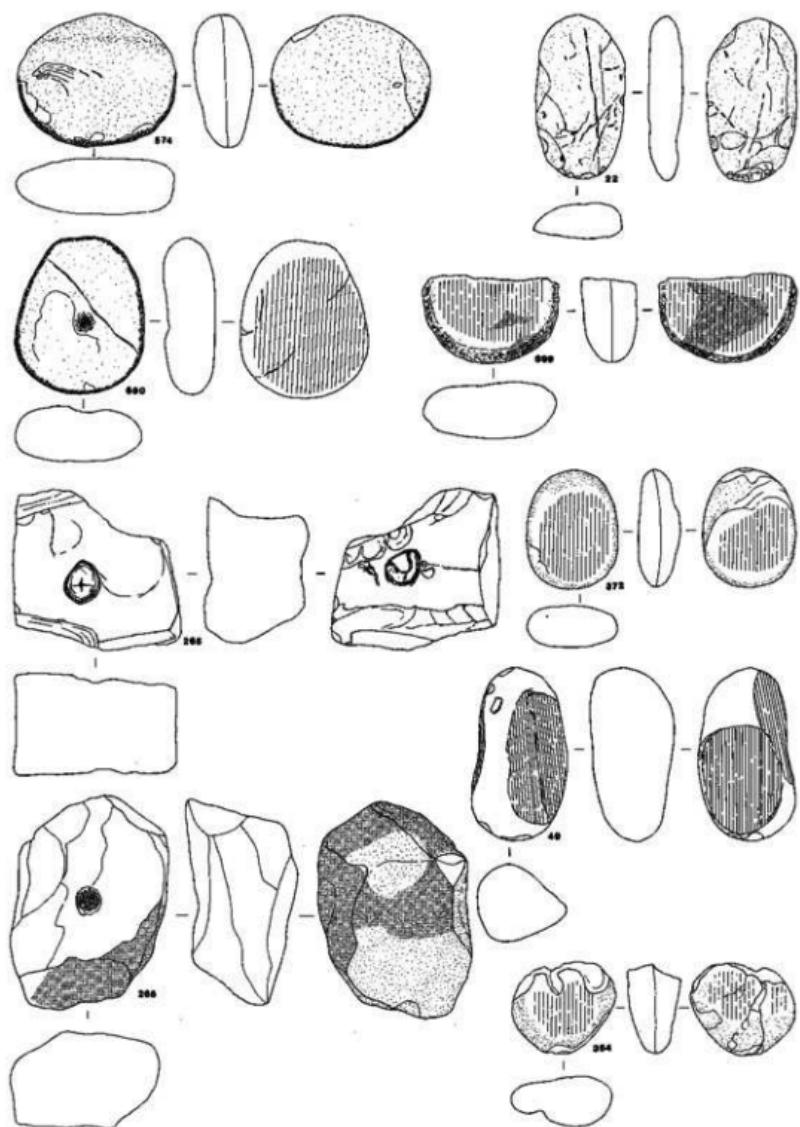
なお、東側に3個の石を組み合せた「炉址」状の遺構が検出されたが、暗褐色土層中に位置し焼土も少なく、周辺の遺構等の関係から「炉址」とは決定しがたい。



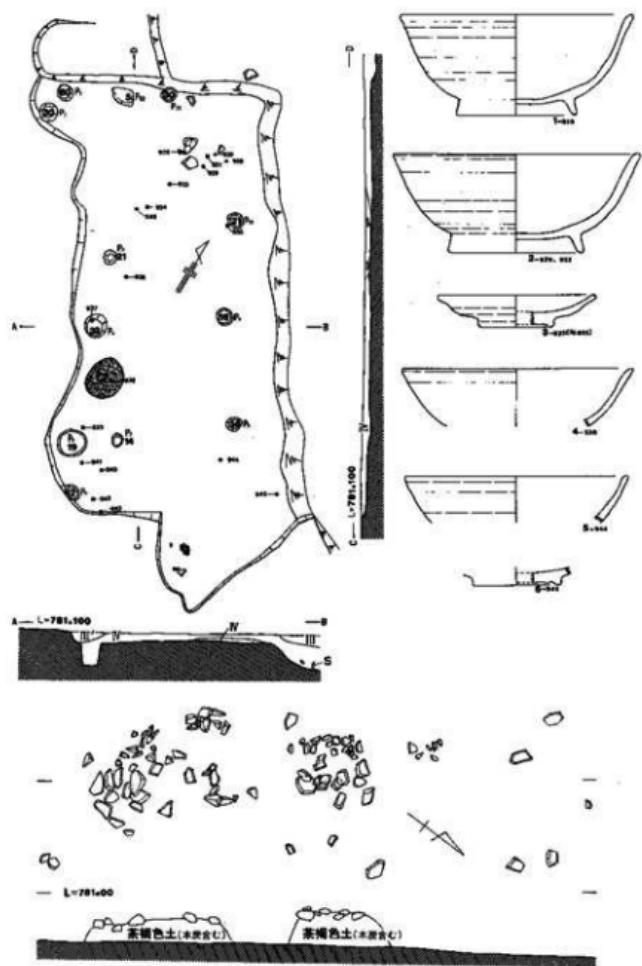
第15図 石器実測図 ($S = \frac{1}{2}$)



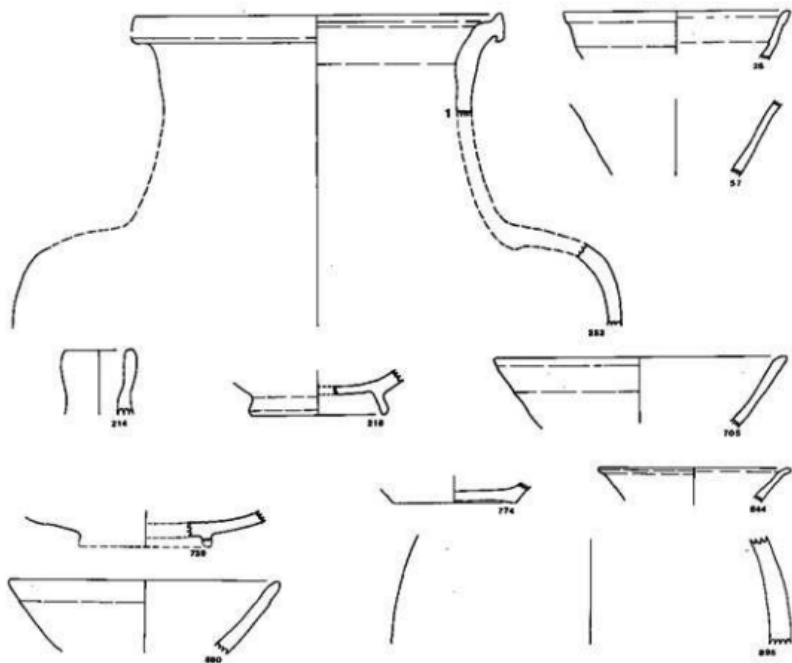
第16図 石器実測図 ($S = \frac{1}{4}$)



第17図 石器実測図 ($S = \frac{1}{4}$)



第18図 第1号住居跡・集石址実測図及び遺物分布図 ($S = \frac{1}{80}$)



第 19 図 第VI・VII群土器実測図 ($S = \frac{1}{2}$)

(4) 第1号住居跡 (第18図 図版2)

土坡群の検出されたレベルより1.5m上位の斜面に構築されている。

住居跡の平面形は、不整形で南北軸が7m50cm、東西軸が3m40cmであり、東・北壁はなく傾斜して下がっている。西壁で、深さ15cmを測り、現状では全体的に浅い。暗褐色土が堆積。

柱穴は、12本検出されたが、主柱穴は、P₁・P₂・P₃・P₄～P₁₁が想定される。

出土遺物は、第Ⅵ群が主体をしめ、碗・杯・皿形が多い。東濃産の陶器と考えられる。

なお、西壁床面に、深さ7cmの焼土が「地床炉」的に遺存していた。

時代は、出土遺物より平安末～鎌倉以降であろう。

(5) 集石址 (第18図 図版2)

第1号住居跡の北西10m地点を中心に、径1m20cm～径1m80cmの礫群が検出された。木炭を含む茶褐色土上に設けられていたが、遺物の出土もなく、周辺の関連遺構もなかった。礫がまとまりをもち人為的ではあるが、時代等は不明確である。

第 IV 章 まとめ

当遺跡は、駒ヶ根市中沢永見山1491-1、1492-1に所在する。標高は780m前後である。陣馬形山に端を発する下間川の左岸段丘上に位置し、東に下間川と丸山地籍の山麓が展望でき、西にはやや急峻な山麓をひかえている。下間川との比高差は、10mを測る。

確認された遺構は、縄文時代早期末から前期にかけての土塙4基、平安時代末以降の住居跡1軒、時代不明の集石址1ヶ所、ピット群である。

●遺物—土器について

先ず縄文早期末から前期にかけての土器の内第I群2類A・B種は、近年、上伊那地方でも、数多く検出され、飯島町カゴ田遺跡では土塙に伴い、高遠町宮の原遺跡では住居跡に伴って出土し、当駒ヶ根市でも舟山遺跡から出土し、その分布が注目されるところである。

当遺跡出土の土器片は、4mm~7mmとやや厚手である。

愛知県南知多町塩屋遺跡の上層土器A類に比定され、塩屋式系の土器である。

次に、第II群1類に含まれる土器の内表裏に擦痕を施し、口唇部に刻み目をもち、表裏ともに指痕が顕著に見られるものは、愛知県南知多町清水ノ上遺跡の清水ノ上I式に比定されるものである。

第II群2類A種の土器は、口縁部が山形口縁で、施文は櫛齒状施文具で引き止めや刺突を施し、胴部には斜繩文を付け、纖維を含まず、神ノ木式系土器に比定される。

このA種に対比するB種は、纖維を含まず、口縁部は平口縁で施文は半截竹管状施文具で横走する刺突やV字状の刺突を施し、胴部下半には沈線文と斜繩文を施すもので、口縁部の施文は、清水ノ上II式に似るが、胴下半部が不明な為、明確に言えない。東海の影響を受け、上伊那に定着した土器と言えよう。

●遺物—石器について

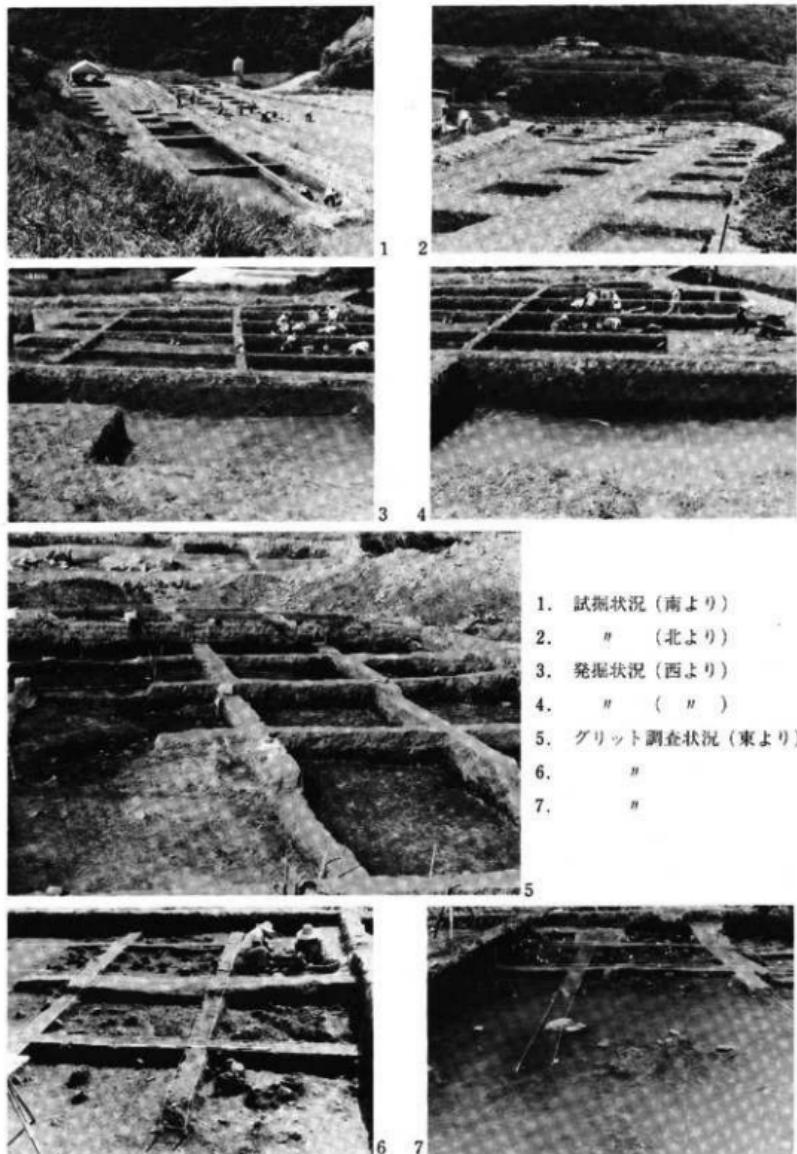
当遺跡で、注目されるのは、片麻岩製・花崗岩製（花崗閃緑岩含む）の凹石が多数出土したことである。凹部の数・位置はともかくとして、単純に凹部のあるもの、両面磨ってあるもの、側面を敲打するものと、使用痕の多様性が顕著である。凹石が、堅果類等の食料を打ち割るものと、土器の混材料を得る為に、磨ったり、敲いたりするものと2形態の機能を考えられ、前者は特に片麻岩製で、後者は、花崗岩・花崗閃緑岩製が當る。出土した土器の胎土と、凹石の材質と一致するものが見られることによる。同じことが、磨石においても、硬砂岩製のものと、花崗岩製・片麻岩製のものとの相違は顕著であることから言える。

以上、簡単なまとめとなってしまいましたが、今回出土した資料は、当地域における縄文時代早期末~前期の研究に貴重な資料を加えることができ、成果を得たと考えます。

なお、報告書の作成に関して、南知多町民俗資料館の大岩貞雄氏、辰野町郷土美術館学芸員赤羽義洋氏のご協力を得たことに深く感謝し、末文ながら、お礼を申し上げる次第です。

(小原晃一)

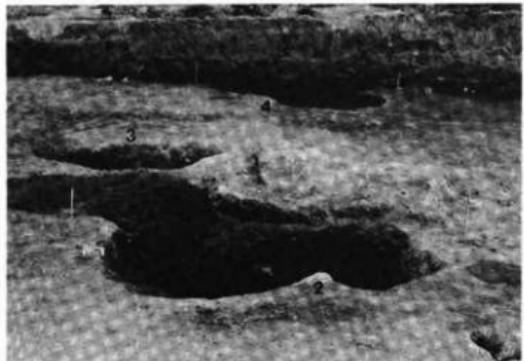
図 版



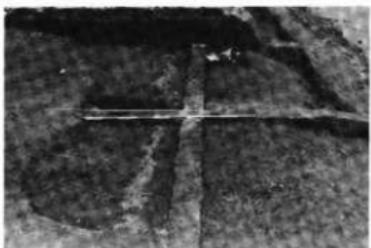
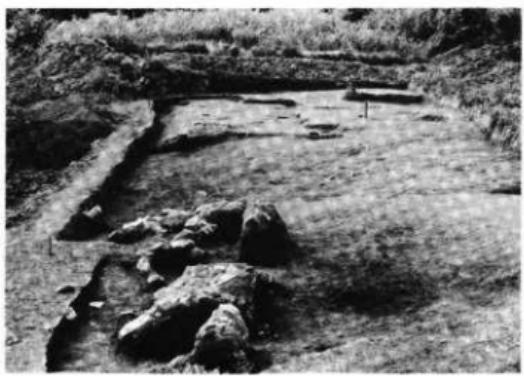
図版 1 よきとぎ遺跡調査状況



2. ピット群及び土塙 1 号



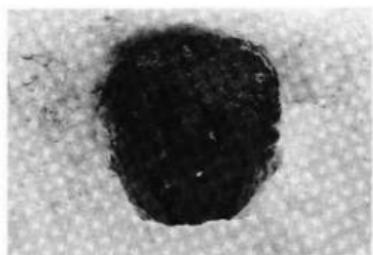
4. 焼土・木炭集中区



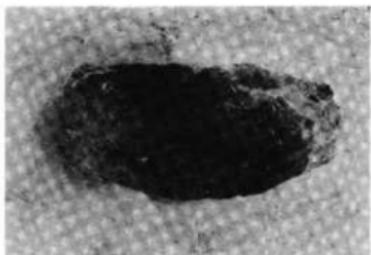
6. 第 1 号住居跡

5. 第 1 号住居跡及び集石址

図版 2 遺構出土状況



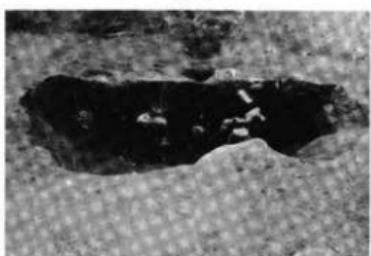
1. 土坡 1 号



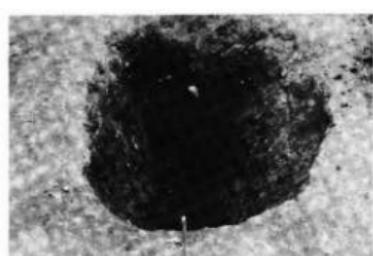
2. 土坡 1 号



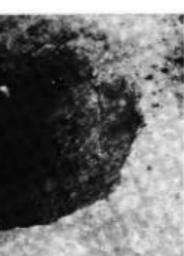
3. 土坡 2 号



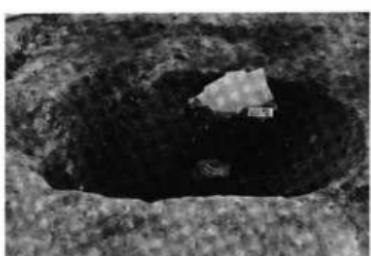
4. 土坡 2 号



5. 土坡 3 号



7. 土坡 4 号



6. 土坡 3 号

8. 土坡 2~4 号

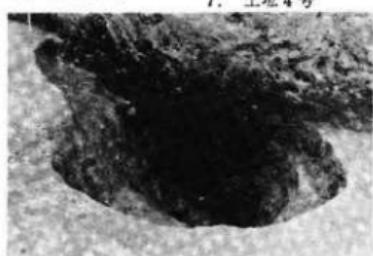


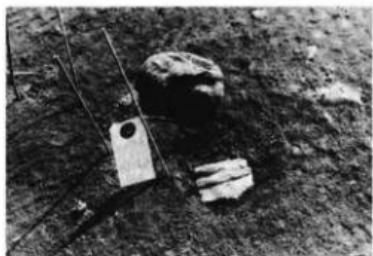
图 版 3 土坡 1 号~4 号



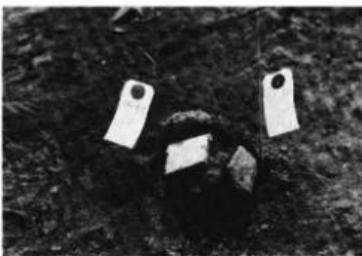
1. さ～す-10・11G 内（黒褐色土層）



2. さ～す-13・14G 内（黒褐色土層）



3. I群土器



4. I群土器・Ⅳ群土器



5. 石皿出土状態

7. 伏甃出土状態

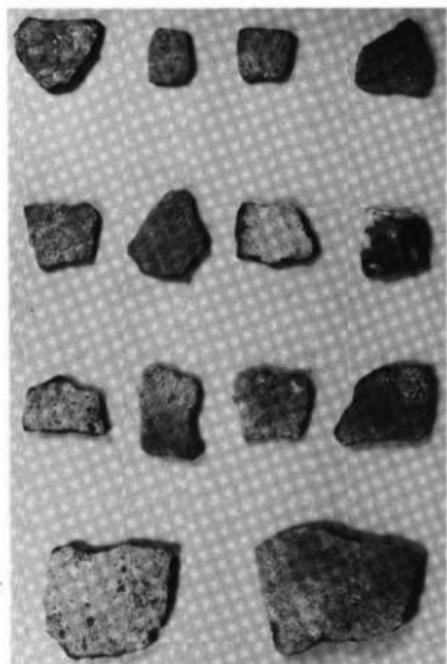


6. I群土器

8. 伏甃出土状態



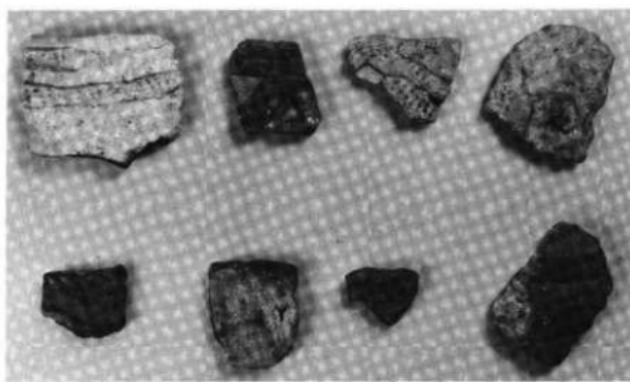
図版 4 遺物出土状態



1. I群1類～2類土器(表)

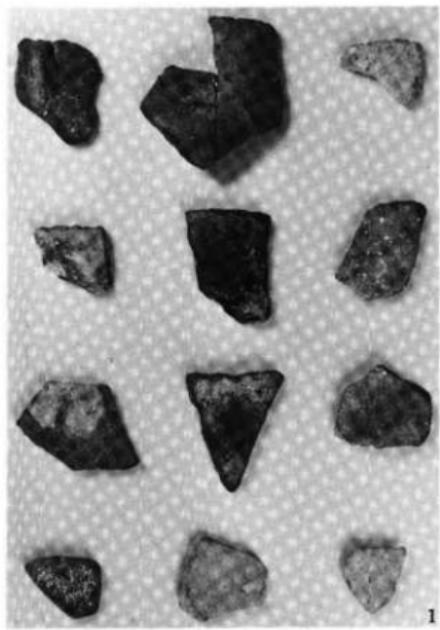


2. 同土器(裏)



3. I群2類土器

図版 5 出土土器



1



2



3



4

1. II群2類A種土器(表) 2. 同土器(裏) 3. III群2類B種土器 4. 同底部
図版 6 出土土器

よきとぎ遺跡

—緊急発掘調査報告—

昭和57年3月20日 印刷

昭和57年3月25日 発行

編集 駒ヶ根市上徳南2-15市立駒ヶ根博物館内

県営ほ場整備事業駒ヶ根下間地区

埋蔵文化財調査会

発行 伊那市青木町伊那合同庁舎内

南信土地改良事務所

駒ヶ根市赤須町20-1

駒ヶ根市教育委員会

印刷 伊那市みすず

小松総合印刷株式会社